クリック

SONY

"ハンディカム" ハンドブック
HDR-PJ20/PJ40V/XR160

目次

使ってみようこの機能

索引

HANDYCAM

4-271-164-**02**(1)

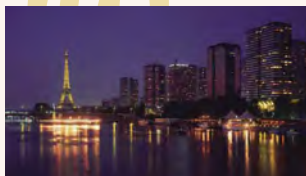
いろいろなシーンで
カンタン・キレイ

撮る

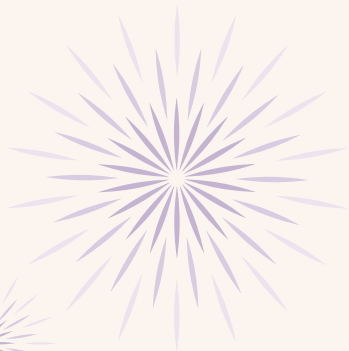
● **ゴルフのスイングをチェックしたい**

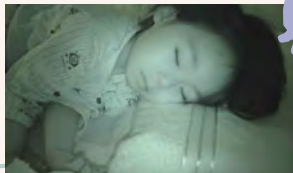
ゴルフショット（71ページ）
なめらかスロー録画（70ページ）

● **面倒な設定をせずにきれいに撮りたい**

おまかせオート撮影（32ページ）

● **画面左の子供にピントを合わせたい**

優先する被写体を決めて撮影する（34ページ）
スポットフォーカス（73ページ）

● **GPSを使いこなす（HDR-PJ40V）**
(41ページ)

● **暗い部屋で子供の寝顔を撮りたい**
Low Lux(74ページ)

● **動画撮影中に静止画も撮りたい**
デュアル記録(36ページ)
スマイルシャッター(35ページ)

● **夕焼けや花火をきれいに撮りたい**
打ち上げ花火(74ページ)
日の出&夕焼け(74ページ)

● **画質やモードを変えたい**

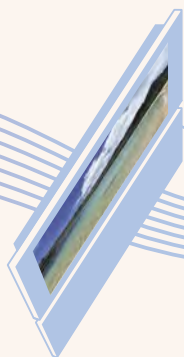
HD/STD設定(33ページ)
録画モード(33ページ)

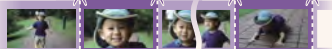
● **記録メディアを変えたい**
メディア切換(18ページ)

楽しむ

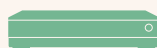
あのシーンが
カンタン・リアル

● 名場面を楽しむ

ハイライト再生（37ページ）

● 本機で編集する

動画から静止画を切り出す（49ページ）
不要な場面を削除する
（分割（48ページ）して、削除（45ページ））

● プロジェクターで見る
（HDR-PJ20/PJ40V）
（40ページ）

思い出を
カンタン・ずっと

保存する

アップロードもカンタン

●外出先のパソコンで
アップロードする

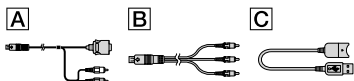
PMB Portable

使用前に必ずお読みください

付属品を確かめましょう

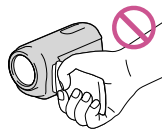
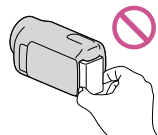
万一、不足の場合はお買い上げ店にご相談ください。(　)内は個数。

- □ ACアダプター(1)
- □ 電源コード(1)
- □ D端子A/Vケーブル(1) A
- □ A/V接続ケーブル(1) B
- □ USB接続サポートケーブル(1) C
  - 本機に組み込まれているビルトインUSBケーブル(13ページ)の長さが足りないときに使います。
- □ ワイヤレスリモコン(HDR-PJ20/PJ40V)(1)
- □ リチャージャブルバッテリーパック NP-FV50(1)
- □ CD-ROM「"Handycam" Application Software」(1)
  - 「PMB」(ソフトウェア、「PMBヘルプ」を含む)
  - 「"ハンディカム" ハンドブック」(PDF)
- □ 取扱説明書(1)
- □ 保証書(1)

A　B　C

- 本機にはソフトウェア「PMB Portable」が内蔵されています。
- 本機で使えるメモリーカードについては、19ページをご覧ください。

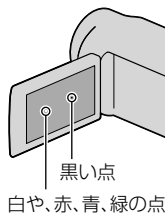
故障や破損の原因となるため、特にご注意ください

- 次の部分をつかんで持たないでください。また、端子カバーをつかんで持たないでください。

シューカバー(HDR-PJ40V)

液晶画面　　バッテリー

ビルトインUSBケーブル

- 本機は防じん、防滴、防水仕様ではありません。「本機の取り扱いについて」もご覧ください(110ページ)。

メニュー項目、液晶画面、およびレンズについて

- 灰色で表示されるメニュー項目などは、その撮影・再生条件では使えません(同時に選べません)。
- 液晶画面は有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えなかったりすることがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されません。

- 液晶画面やレンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。
- 直接太陽を撮影しないでください。故障の原因になります。夕暮れ時の太陽など光量の少ない場合は撮影できます。

録画・録音について

- メモリーカードの動作を安定させるために、メモリーカードを本機ではじめてお使いになる場合には、まず、本機でフォーマット（初期化）することをおすすめします（84ページ）。フォーマットすると、メモリーカードに記録されている全てのデータは消去され、元に戻すことは出来ません。大切なデータはパソコンなどに保存しておいてください。
- 事前にためし撮りをして、正常な録画・録音を確認してください。
- 万一、ビデオカメラレコーダーや記録メディアなどの不具合により記録や再生がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の補償については、ご容赦ください。
- あなたがビデオで録画・録音したものは個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。
- 本機はご利用になる場所の規則に従ってお使いください。

再生に際してのご注意

- 本機で記録した映像は、本機以外の機器では正常に再生できない場合があります。また、他機で記録した映像は本機で再生できない場合があります。
- SDカードに記録した標準画質（STD）の動画は、他社製のAV機器では再生できません。

ハイビジョン画質（HD）で記録したDVDについて

- AVCHD規格対応機器でのみ、再生できます。DVDプレーヤーやDVDレコーダーはAVCHD規格に非対応のため、ハイビジョン画質（HD）で記録したディスクを再生できません。また、これらの機器にAVCHD規格で記録したハイビジョン画質（HD）のディスクを入れた場合、ディスクの取り出しができなくなる可能性があります。

撮影した画像データは保存してください

- 万一のデータ破損に備えて、撮影した画像データを定期的に保存してください。パソコンで保存するには53ページ、他機で保存するには56ページをご覧ください。
- [録画モード]で選ばれている設定によっては、保存できないディスクがあります。[60p画質 PS]にして撮影した動画は、外付けメディアのみに保存できます（58ページ）。[最高画質FX]にして撮影した動画は、外付けメディアとブルーレイディスクのみに保存できます（61ページ）。

バッテリー・電源アダプターについて

- バッテリーやACアダプターは、電源を切ってから取り外してください。
- ACアダプターを本機から抜くときは、DCプラグと本機を持って取り外してください。

本機やバッテリーの温度について

- 本機やバッテリーの温度によっては、カメラを保護するために撮影や再生ができなくなることがあります。この場合は、本機の液晶画面にメッセージが表示されます（99ページ）。

パソコンやアクセサリーなどとの接続について

- パソコンから本機の記録メディアをフォーマットしないでください。正常に動作しなくなります。
- 本機をケーブル類で他機と接続するときは、端子の向きを確認してつないでください。無理に押し込むと端子部の破損、または本機の故障の原因になります。
- 本機の電源が入っている状態でUSB接続しているときに、液晶画面を閉じないでください。記録した映像が失われる場合があります。

画像が正しく記録・再生されないときは[フォーマット]してください

- 長期間、画像の撮影・消去を繰り返していると、記録メディア内のファイルが断片化(フラグメンテーション)して、画像が正しく記録・保存できなくなる場合があります。このような場合は、画像を保存したあと、[フォーマット](84ページ)を行ってください。

別売りのアクセサリーについて

- ソニー純正アクセサリーの使用をおすすめします。
- 国や地域によっては発売されていないものもあります。

本書の表記、イラスト、画面表示について

- 画像の例としてスチルカメラによる写真を使っています。画像や本機の画面表示は、実際に見えるものと異なります。また、本機のイラストや画面表示は、わかりやすくするために誇張、省略されています。
- 本書では、内蔵メモリー(HDR-PJ20/PJ40V)、内蔵ハードディスク(HDR-XR160)、メモリーカードを「記録メディア」といいます。
- 本書では、ハイビジョン画質(HD)で保存したDVDディスクを「AVCHD記録ディスク」と表現しています。
- 本機やアクセサリーの仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。
- 特に機種別の説明が必要なところを除き、本書のイラストにはHDR-PJ40Vをモデルにしています。

型名をご確認ください

- 機種間で異なる仕様がある場合、搭載機種の型名を本書で明記しています。型名は、本機の底面でご確認ください。
- 本シリーズの主な機種の差分は、次の通りです。

	記録メディア	内蔵記録メディアの容量
HDR-PJ20**	内蔵メモリー+メモリーカード	32 GB
HDR-PJ40V* **		64 GB
HDR-XR160	内蔵ハードディスク+メモリーカード	160 GB

* GPS機能搭載

** プロジェクター搭載

取扱い上のご注意

- 本機で次のことをすると、記録メディアが壊れたり、記録した映像が再生できなくなったり、失われたりする場合があります。また、本機の故障の原因になります。
  - アクセスランプ(20ページ)が点灯、点滅中にメモリーカードを取り出す
  - 本機の(動画)ランプ/(静止画)ランプ(22、24ページ)や、アクセスランプ(20ページ)が点灯、点滅中に本機からバッテリーやACアダプターを取り外したり、本機に衝撃や振動を与える
- ショルダーベルト(別売)を使用中は、本機を物にぶつけないように特に注意してください。
- 大音量の場所では、本機を使用しないでください(HDR-XR160)。

落下検出について(HDR-XR160)

- 落下による衝撃から内蔵ハードディスクを保護するため、本機は[落下検出]機能(89ページ)を搭載しています。そのため、本機が落下状態になったり、無重力状態になったりすると、内蔵ハードディスク保護のための動作音が録音されることがあります。また、繰り返し落下状態を検出した場合は、撮影や再生が停止することがあります。

高地などでの使用について(HDR-XR160)

- 気圧の低い場所(海抜5,000メートル以上)では本機の電源を入れないでください。内蔵ハードディスクを破損するおそれがあります。

目次

準備する

撮る／見る

応用操作

パソコンを使って保存する

他機を使って保存する

本機の設定を変える

その他

各部のなまえ・索引

準備1：バッテリーを充電する

専用の"インフォリチウム"バッテリー(Vシリーズ)を本機に取り付けて充電します。

ご注意

- "インフォリチウム"バッテリー Vシリーズ以外は使えません。

1 本機の液晶画面を閉じて、電源を切った状態にする。

2 バッテリーを「カチッ」というまで矢印の方向にずらして取り付ける。

3 ACアダプターと電源コードを本機とコンセントにつなぐ。

CHG(充電)ランプまたは/CHG(フラッシュ /充電)ランプが点灯し、充電が始まります。

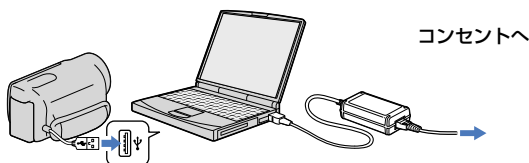
充電が完了するとCHG(充電)ランプまたは/CHG(フラッシュ /充電)ランプが消えます(満充電)。

4 充電が終わったら、ACアダプターを本機のDC IN端子から抜く。

パソコンで充電するには

ACアダプターが手元にないときに便利です。

① 本機の電源を切り、バッテリーを取り付ける。

② 本機と、起動しているパソコンをビルトインUSBケーブルで接続する。

③ 充電が終わったら、本機とパソコンの接続を終了する。

ご注意

- すべてのパソコンでの動作を保証するものではありません。
- 電源を接続していないノートパソコンと本機を接続した場合、ノートパソコンのバッテリーが消耗します。本機を接続したまま長時間放置しないでください。
- 自作パソコンや改造したパソコン、またハブ経由での充電は保証できません。同時にお使いになるUSB機器によっては、正常に動作しないことがあります。

ちょっと一言

- USB充電ACアダプター AC-U501AD/AC-U50AG（別売）を使うと、ビルトインUSBケーブルを使ってコンセントから充電できます。ソニー製のポータブル電源機器CP-AH2R、CP-AL（別売）は使えません。
- バッテリー残量が少ないときは、CHG（充電）ランプもしくは、⚡/CHG（フラッシュ /充電）ランプが点灯しない場合があります。このようなときは、ACアダプターで充電してください。

充電時間（満充電）

使い切った状態からのおよその時間（分）

バッテリー型名	満充電時間	
	ACアダプター	ビルトインUSBケーブル*
NP-FV50（付属）	155	315
NP-FV70	195	600
NP-FV100	390	1,050

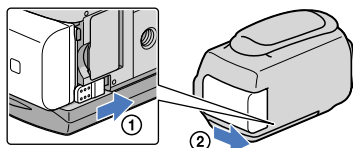
- 25℃で充電したときの時間です。10℃～ 30℃での充電をおすすめします。

＊ USB接続サポートケーブルを使わないときの充電時間です。

ちょっと一言

- 電源を入れて撮影画面にすると、画面右上のバッテリー残量表示でおおよそのバッテリー残量を確認できます。

バッテリーを取り外すには

液晶画面を閉じて、BATT（バッテリー）取り外しレバーをずらしながら（①）バッテリーを取り外す（②）。

コンセントの電源で使うには

「準備1：バッテリーを充電する」（12ページ）のつなぎかたのまま操作する。
バッテリーを取り付けたままでもバッテリーは消耗しません。

海外で充電するには

付属のACアダプターを使って全世界で充電できます。ただし、地域によって電源プラグの形が異なるので変換プラグが必要です。旅行代理店などでご確認ください。

ご注意

- 電子式変圧器（トラベルコンバーター）は使用しないでください。

バッテリーについて

- バッテリーやACアダプターを取り外すときは、本機の電源を切り、（動画）ランプ/（静止画）ランプ（22、24ページ）、アクセスランプ（20ページ）が消えていることを確認してください。
- 次のとき、充電中のCHG（充電）ランプもしくは、/CHG（フラッシュ /充電）ランプが点滅することがあります。
  - バッテリーを正しく取り付けていないとき
  - バッテリーが故障しているとき
  - バッテリーの温度が低いとき
    バッテリーを外して暖かいところに置いてください。
  - バッテリーの温度が高いとき
    バッテリーを外して涼しいところに置いてください。
- NP-FV30は撮影・再生可能な時間が短いため、本機での使用はおすすめできません。
- お買い上げ時は、電源を入れて何もしない状態が約5分間続くと、バッテリー消耗防止のため、自動的に電源が切れます（[自動電源オフ]、89ページ）。

ACアダプターについて

- ACアダプターは手近なコンセントを使用してください。本機を使用中、不具合が生じたときはすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。
- ACアダプターを壁との隙間などの狭い場所に設置して使用しないでください。
- ACアダプターのDCプラグやバッテリー端子を金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。

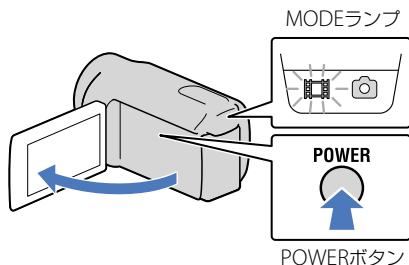
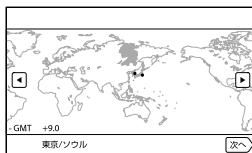
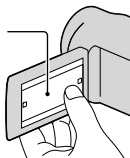
電源コードについて

付属の電源コードは、本機専用です。他の電気機器では使用できません。

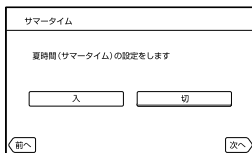
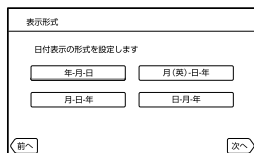
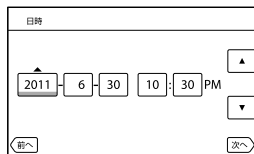
準備2：電源を入れて日時を合わせる

1 本機の液晶画面を開く。

本機の電源が入り、レンズカバーが開きます。

- 液晶画面が開いた状態から電源を入れるときは、POWERボタンを押します。

2 [<]/[>] でエリアを選び、[次へ]をタッチする。

- 再度、時計あわせをするには、MENU（メニュー）→［セットアップ］→［(時計設定)］→［日時設定］→［日時］の順にタッチします。画面にないときは、[^]/[v] をタッチして項目を表示させます。

3 サマータイムを選び、[次へ]をタッチする。

- ［サマータイム］を［入］にすると、時計が1時間進みます。

4 希望の日付表示形式を選び、[次へ]をタッチする。

5 設定する項目を選び、[⌄]/[⌃]で数値を設定し、[次へ] → [OK] をタッチする。

時計が動き始めます。

ご注意

- 日付時刻は撮影時には表示されません。撮影した記録メディアに自動的に記録され、再生時に表示させることができます。表示させるには、MENU(メニュー)→[セットアップ]→[▶(再生設定)]→[日付/データ表示]→ OK をタッチします。
- ボタンをタッチしたときなどの操作音を消すには、MENU(メニュー)→[セットアップ]→[🔧(一般設定)]→[操作音]→[切]→ OK をタッチします。
- 反応するボタンがずれていると感じるときは、タッチパネルの調整(キャリブレーション)をしてください(111ページ)。
- 一度日時を設定したあとは、[自動時刻補正](90ページ)/[自動エリア補正](91ページ)を[入]に設定しておくと自動的に日時が補正されます。地域によっては正しい時刻にならない場合があります。その場合は[切]に設定してください(HDR-PJ40V)。

電源を切るには

液晶画面を閉じる。

🎞(動画)ランプが数秒間点滅して、電源が切れます。

ちょっと一言

- POWERボタンを押しても電源を切ることができます。
- [パネルで電源オン](89ページ)の設定が[切]になっているときは、POWERボタンを押して電源を切ってください。

準備3：メディアを準備する

本機で使用できる記録メディアは、お使いの機種によって異なります。本機の画面では次のようなアイコンで表示されます。

* お買い上げ時の設定ではこの記録メディアに動画・静止画が記録されます。設定したメディアで画像を記録、再生、編集できます。

記録メディアを変える

1 MENU（メニュー）→［セットアップ］→［（メディア設定）］→［メディア切換］をタッチする。

［メディア切換］画面が表示されます。

2 希望の記録メディアをタッチして、OK → OK をタッチする。

動画と静止画が選択された記録メディアに記録されます。

記録メディアを確かめるには

動画または静止画の撮影モードで、画面右上に記録メディアが表示されます。

- 機種によって表示されるアイコンが違います。

メモリーカードを入れる

ご注意

- メモリーカードに動画や静止画を記録する場合は、記録メディアを[メモリーカード]に設定してください。

本機で使えるメモリーカード

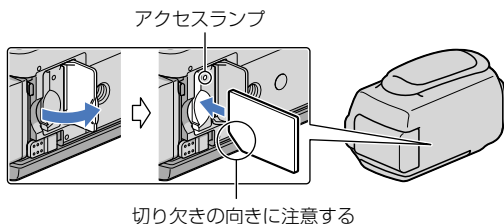
		SDスピードクラス	本書での表現
“メモリースティック PRO デュオ”(Mark2)		–	“メモリースティック PRO デュオ”
“メモリースティック PRO-HG デュオ”			
SDメモリーカード		Class 4以上	SDカード
SDHCメモリーカード			
SDXCメモリーカード			

- すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。
- 標準の“メモリースティック”の約半分の大きさの“メモリースティック PRO デュオ”、または標準の大きさのSDカードのみ使えます。
- メモリーカード本体およびメモリーカードアダプターにラベルなどは貼らないでください。故障の原因になります。
- 本機で動作確認されている“メモリースティック PRO デュオ”は32GB、SDカードは64GBまでです。
- 使用可能なメモリーカードの最新情報につきましてはホームページをご確認ください(123ページ)。

ご注意

- マルチメディアカードは使用できません。
- SDXCメモリーカードに記録した映像は、exFAT*に対応していないパソコンやAV機器などに、本機をUSBケーブルで接続して取り込んだり、再生したりできません。接続する機器がexFATに対応しているかあらかじめご確認ください。対応していない機器に接続した場合、フォーマット画面が表示される場合がありますが、決して実行しないでください。記録した内容が全て失われます。
  - * exFATは、SDXCメモリーカードで使用されているファイルシステムです。

1 カバーを開き、メモリーカードの切り欠き部を図の向きにして「カチッ」というまで押し込む。

• 入れた後はカバーを閉じてください。

新しいメモリーカードを入れたときは、[管理ファイル準備中]が表示されます。表示が消えるまでそのままお待ちください。

2 カバーを閉じる。

ご注意

- [管理ファイルを新規作成できませんでした　空き容量がたりない可能性があります]と表示されたときは、メモリーカードをフォーマットしてください(84ページ)。
- 誤った向きで無理に入れると、メモリーカードやメモリーカードスロット、画像データが破損することがあります。
- 撮影中にカバーを開けないでください。
- 出し入れ時にはメモリーカードの飛び出しにご注意ください。

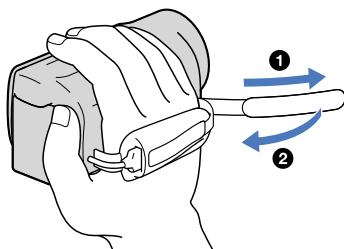
メモリーカードを取り出すには

カバーを開き、メモリーカードを軽く1回押して取り出します。

撮る

お買い上げ時の設定では、動画と静止画は次の記録メディアに記録されます。動画はハイビジョン画質（HD）で記録されます。
HDR-PJ20/PJ40V：内蔵メモリー
HDR-XR160：内蔵ハードディスク

ちょっと一言

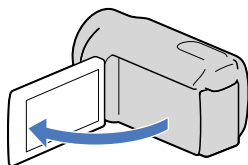
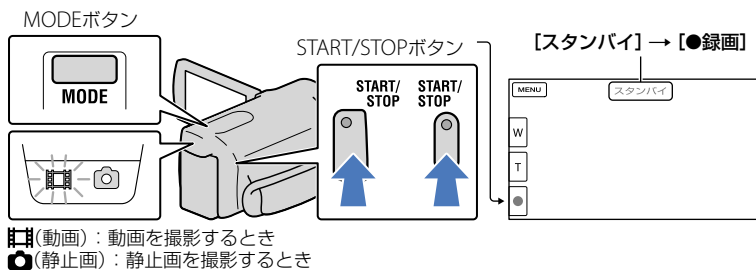
- 記録メディアの変えかたは18ページをご覧ください。

1 グリップベルトをしっかり締める。

2 本機の液晶画面を開く。

本機の電源が入り、レンズカバーが開きます。

動画を撮る

(動画):動画を撮影するとき
(静止画):静止画を撮影するとき

---

1 MODEボタンを押して、(動画)ランプを点灯させる。

---

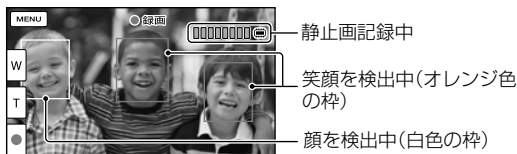
2 START/STOPボタンを押して動画の録画を始める。

撮影をやめるときは、START/STOPボタンをもう一度押します。

液晶画面の表示をもう一度出すには

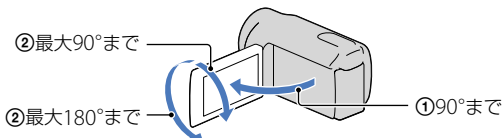
液晶画面のボタン以外の部分をタッチしてください。[画面表示設定]で、設定を変更できます(80ページ)。

笑顔を逃さず撮る

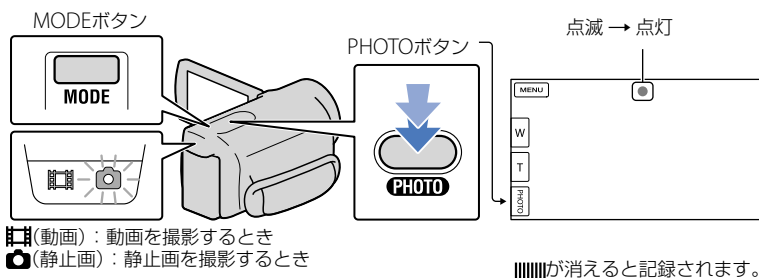
お買い上げ時の設定では、動画撮影中に人物の笑顔を検出して、自動的に静止画を記録します(スマイルシャッター、77ページ)。
また、人物の顔を検出すると、顔部分の画質が自動的に調節されます([顔検出]、77ページ)。

ご注意

- 撮影中に液晶画面を閉じると、録画が止まります。
- 動画の連続撮影可能時間は約13時間です。
- 動画のファイルサイズが2GBを超えると、自動的に次のファイルが生成されます。
- 電源を入れてから撮影が可能になるまで数秒かかります。その間、本機の操作はできません。
- 撮影終了後、次の状態のときは撮影したデータを記録メディアに書き込み中です。本機に衝撃や振動を与えたり、バッテリーやACアダプターを取り外したりしないでください。
  - アクセスランプ(20ページ)が点灯中、または点滅中
  - 液晶画面右上のメディアアイコンが動作中

ちょっと一言

- 動画撮影中にPHOTOボタンを押すと、静止画を撮影できます(デュアル記録、36ページ)。
- [手ブレ補正]機能は、お買い上げ時の設定は[アクティブ]です。
- 優先する被写体を選んで撮影できます(34ページ)。
- 記録した動画から静止画を作成できます(49ページ)。
- 撮影可能時間や空き容量の目安などを確認するには、MENU(メニュー)→[セットアップ]→[(メディア設定)]→[メディア情報]をタッチします(84ページ)。
- 本機に搭載されている液晶画面は、記録エリア全体を表示できます(フルピクセル表示)。このため、フルピクセル表示機能のないテレビに接続した場合、画面の上下左右が若干切れて表示されることがあります。[ガイドフレーム](79ページ)を[入]にして、表示される外側の枠を目安に撮影することをおすすめします。
- 液晶画面を見やすく調節するには、液晶画面を90°まで開き(①)、見やすい角度に調節してください(②)。

撮影時のデータについて

撮影時の日付時刻と撮影条件を示したカメラデータ、緯度経度データ(HDR-PJ40V)が、自動的に記録されます。これらのデータは、撮影中には表示されませんが、再生時に日付時刻/カメラデータ/緯度経度データ(HDR-PJ40V)として確認できます(85ページ)。

静止画を撮る

(動画):動画を撮影するとき
(静止画):静止画を撮影するとき
が消えると記録されます。

1 MODEボタンを押して、(静止画)ランプを点灯させる。

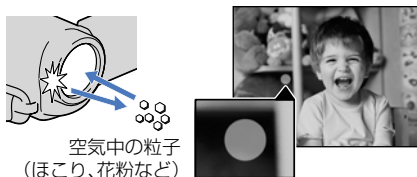
静止画撮影モードに切り替わり、画像の横縦比が4:3になります。

2 PHOTOボタンを軽く押してピントを合わせてから、そのまま深く押す。

ちょっと一言

- 画像サイズは、MENU(メニュー)→[画質・画像サイズ]→[画像サイズ]→好みの設定→ OK をタッチして変更できます。
- 表示中は静止画撮影できません。
- 暗い場所では自動的にフラッシュが発光します。動画撮影モードのときは発光しません。フラッシュの発光方法は、MENU(メニュー)→ [カメラ・マイク]→ [(フラッシュ)]→ [フラッシュ]→好みの設定→ OK をタッチして変更できます(78ページ)(HDR-PJ40V)。
- コンバージョンレンズ(別売)をつけてフラッシュ撮影すると、影が映ることがあります(HDR-PJ40V)。

静止画に白く丸い点が写るときは(HDR-PJ40V)

レンズの近くに浮かんでいるほこりや花粉などにフラッシュが反射して、白く丸い点のように撮影されてしまうことがあります。
軽減するには、撮影環境を明るくし、フラッシュなしで撮影してください。

本機で見る

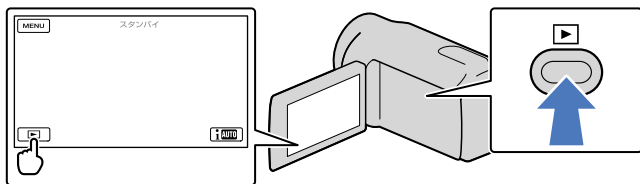
本機はステレオスピーカーを搭載しており、迫力のサウンドで画像の再生をお楽しみいただけます。
お買い上げ時の設定では、次の記録メディアに記録した動画や静止画を再生します。
HDR-PJ20/PJ40V：内蔵メモリー
HDR-XR160：内蔵ハードディスク

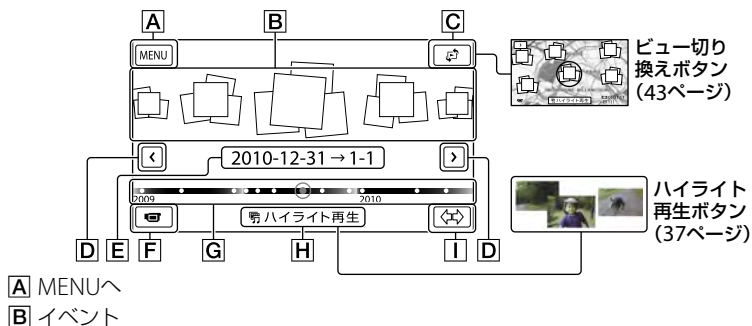
ちょっと一言

- 記録メディアの変えかたは18ページをご覧ください。
- 本機は撮影日時を元に、撮影した画像を自動でまとめてイベントとして表示します。また、位置情報を元にまとめて表示することもできます（HDR-PJ40V）。

1 本機の液晶画面を開く。

本機の電源が入り、レンズカバーが開きます。

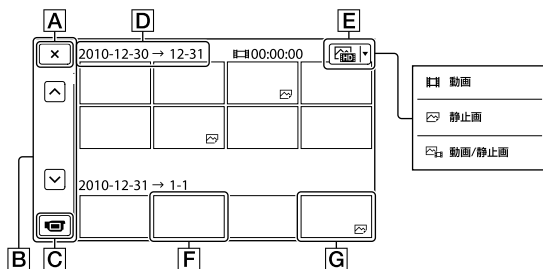
2 ▶（画像再生）ボタンを押す。

数秒後にイベントビューが表示されます。

3 ＜/＞で見たいイベント（B）を選んでタッチする。

A MENUへ
B イベント

C ビュー切り換え（HDR-PJ40V）
D ＜/＞：前のイベントへ/次のイベントへ
E イベント名
F 撮影画面へ
G タイムラインバー
H ハイライト再生*
I イベントサイズ切り換え

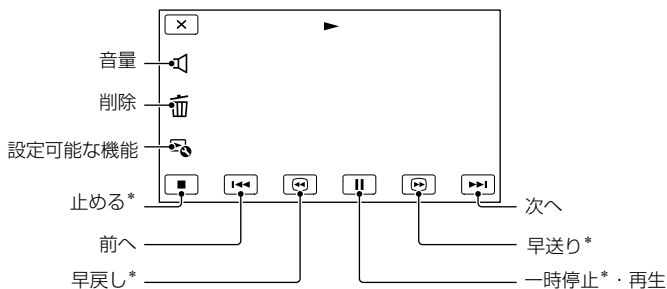
* HD設定時のみ表示されます。

中央のイベントをタッチすると、イベントインデックス画面が表示されます。
- タイムラインバーの◆をタッチして選ぶこともできます。
- 画面右下の⇦⇨（Iイベントサイズ切り換えボタン）をタッチすると、タイムラインバーに表示されるイベントの範囲を約1年半分から約3ヶ月分に切り換えることができます。

4 見たい画像をタッチする。

Eをタッチすると、インデックスに表示する画像を、[動画]（動画のみ）、[静止画]（静止画のみ）、[動画/静止画]（動画/静止画混合）から選ぶことができます。

A イベントビューへ
B 前のページへ/次のページへ（押し続けると、連続でスクロールします。）
C 撮影画面へ
D イベントタイトル
E 表示画像切り換え
F 動画
G 静止画
- 最後に再生・撮影した動画や静止画に I▶I が表示されます。タッチすると前回の続きから再生されます。

動画再生時の画面を操作する

動画再生時は以下の各機能を操作できます。表示画像切り換えボタンで[動画/静止画](お買い上げ時の設定)、または[動画]を選んでいると、再生時の画面は以下のようになります。

* 動画再生時のみご使用になれます。

ご注意

- 本機で撮影した画像は他機では再生できない場合があります。

ちょっと一言

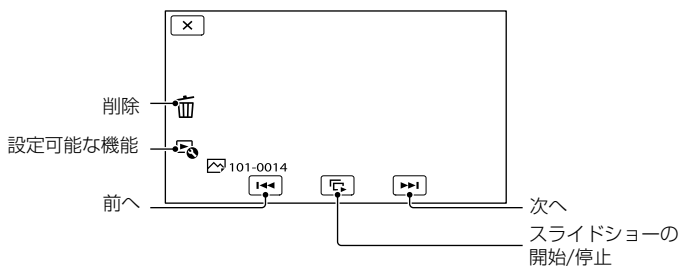
- 再生中の画面で をタッチすると、その状況で使える機能を表示して、気軽に設定できます。
- 選んだ画像から最後の画像まで再生されると、インデックス画面に戻ります。
- 一時停止中に / をタッチすると、スロー再生が始まります。
- 再生中、 / はタッチする回数によって、約5倍速→約10倍速→約30倍速→約60倍速で再生します。
- 撮影時に日付時刻と撮影条件を示したカメラデータ、緯度経度データ(HDR-PJ40V)が、自動的に記録されます。これらのデータは、撮影中は表示されませんが、MENU(メニュー)→[セットアップ]→[(再生設定)]→[日付/データ表示]→好みの設定→ OK → × をタッチすると再生時に表示できます。
- お買い上げ時は、プロテクトされたデモンストレーション用の動画が保存されています。

音量を調節するには

動画再生中に、 (音量調節)→ / で調節→ OK をタッチします。

撮る／見る

静止画を見る

静止画表示時は以下の各機能を操作できます。表示画像切り換えボタンで[静止画]を選んでいると、再生時の画面は以下のようになります。

ちょっと一言

- スライドショーの繰り返し再生を設定するときは、→[スライドショー設定]をタッチしてください。

テレビにつないで見る

テレビの種類や接続する端子によって、接続方法やテレビに映る画質（ハイビジョン（HD）/標準（STD））が異なります。

本機の端子

* HDR-PJ20/PJ40V
** HDR-XR160

1 テレビの入力設定を切り換える。

• 詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

2 本機をテレビにつなぐ。

• 本機の電源は、ACアダプターを使ってコンセントからとってください（12ページ）。

3 本機で動画、静止画を再生する（25ページ）。

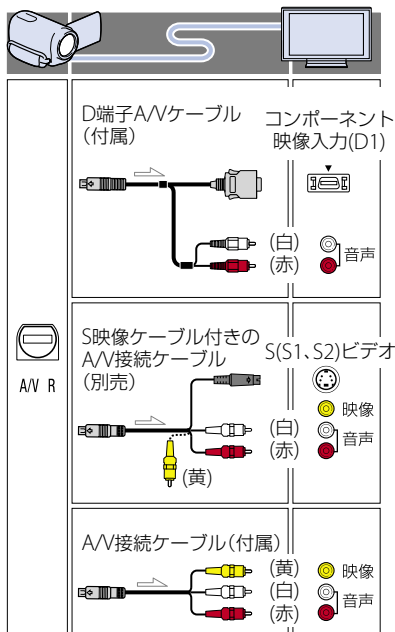
接続方法一覧

ハイビジョンテレビのとき

記録画質がハイビジョン（HD）のときはHD画質で、標準（STD）のときはSTD画質で再生されます。

撮る／見る

ハイビジョン非対応テレビのとき

記録画質がハイビジョン(HD)のときは変換してSTD画質で、標準(STD)のときはSTD画質で再生されます。

D端子A/Vケーブル接続のときは

- コンポーネントプラグ(D端子)のみつないだ場合、音声は出力されません。音声を出力するには白と赤のプラグも接続してください。
- コンポーネント(D端子)に合わせて[コンポーネント出力]を設定してください。
  MENU (メニュー)→[セットアップ]→[⇄ 接続]→[コンポーネント出力]→お好みの設定→ OK をタッチして設定できます。

HDMIケーブル接続のときは

- HDMIケーブルはHDMIロゴがついているものをお使いください。
- 本機側はHDMIミニコネクタ、テレビ側はテレビの端子にあったプラグのHDMIケーブルをお使いください。
- 著作権保護のための信号が記録されている映像を、本機のHDMI OUT端子から出力できません。
- 一部の機器では、映像や音声が出ないなど正常に動作しない場合があります。
- 本機と接続機器の出力端子同士を接続しないでください。故障の原因となります。
- 接続先の機器が5.1chサラウンドに対応している場合、5.1ch音声で記録したハイビジョン画質(HD)の動画は、自動的に5.1ch音声で出力されます。標準画質(STD)の動画は、2ch音声に変換して出力されます。

ハイビジョン非対応のテレビ(ワイド/4:3)に合わせて画像の横縦比を変えるには

- お使いになるテレビの横縦比に合わせて、[TVタイプ]を[16:9]または[4:3]に設定してください(86ページ)。

S映像ケーブル付きA/V接続ケーブル接続のときは

- S映像プラグのみつないだ場合、音声は出力されません。音声を出力するには白と赤のプラグも接続してください。
- A/V接続ケーブルに比べ、画像をより忠実に再現できます。
- 本機はS1映像端子対応のため、つなぐ端子がSまたはS2映像端子のときは画像が正しく表示されない場合があります。その場合、テレビの設定を変更することで改善されることがあります。テレビの取扱説明書もあわせてお読みください。

モノラルテレビ(音声端子がひとつ)のときは

- A/V接続ケーブルの黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグ(左音声)か赤いプラグ(右音声)のどちらかを音声入力へつないでください。

ビデオ経由でテレビにつなぐには

- ビデオの入力端子によって接続方法を選んでください。ビデオの外部入力端子につなぎ、ビデオに入力切り換えスイッチがある場合は「外部入力」(ビデオ1、ビデオ2など)に切り換えてください。

ご注意

- 標準画質(STD)で記録して、ワイド信号非対応の4:3テレビで再生する場合は、撮影時に MENU (メニュー)→[画質・画像サイズ]→[ワイド切換]→[4:3]→ OK をタッチして、4:3で撮影してください(81ページ)。
- A/V接続ケーブルを使って接続すると、出力される画質は標準画質(STD)になります。

ちょっと一言

- 画像を出力するときに、複数のケーブルでテレビをつないでいるときは、テレビの入力がHDMI→コンポーネント→S(S1、S2)映像→映像端子の順で優先されます。
- HDMI(High Definition Multimedia Interface)とは、テレビ接続機器のデジタル映像/音声信号を直接つなぐインターフェースです。HDMI OUT端子とテレビを1本のケーブルで接続することで、高画質な映像とデジタル音声を楽しめます。

ブラビアリンクを使う

本機とブラビアリンク対応のテレビ*をHDMIケーブルでつなぐと、テレビのリモコンを使用して操作できます。
テレビのリモコンのリンクメニューボタンから本機の操作メニューを開き、上/下/左/右/決定ボタンで、イベントビューなどを表示してお好みの動画/静止画を再生できます。

*2008年以降に発売された、ブラビアリンク対応のテレビで使用できます。

ご注意

- リモコンでは一部の操作が行えないことがあります。
- 本機を設定するには、MENU (メニュー)→[セットアップ]→[(接続)]→[HDMI機器制御]→[入](お買い上げ時の設定)→ OK → ✕ → ✕ をタッチしてください。
- テレビ側の設定も必要です。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- リンクメニューの操作はお使いのブラビアによって異なります。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

- テレビの電源を切ると、本機も連動して電源が切れます。

“ブラビア プレミアムフォト”について

本機は“ブラビア プレミアムフォト”に対応しています。“ブラビア プレミアムフォト”とは、写真らしい高精細で微妙な質感や色あいの表現を可能にする機能です。“ブラビア プレミアムフォト”に対応したソニー製テレビと本機を、HDMIケーブル*またはD端子A/Vケーブル**で接続すると、今までになかった感動のFull HD高画質で写真をお楽しみいただけます。

* 表示画像切換ボタンで[静止画]を選んでいると、テレビの設定が自動的に切り替わります。

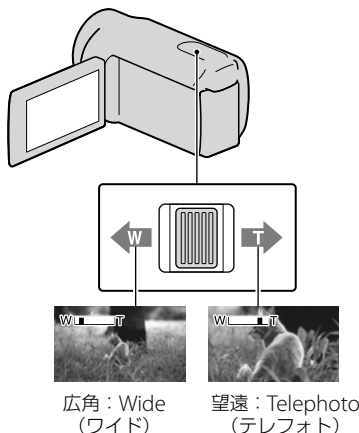
** テレビ側の設定が必要です。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

撮る/見る

撮るときに便利な機能

ズームする

ズーム倍率は下記のとおりです。
HDR-PJ20/XR160：42倍
HDR-PJ40V：17倍
倍率はズームレバーで調整します。液晶画面の W/T をタッチしても操作できます。

広角：Wide（ワイド）　望遠：Telephoto（テレフォト）

ズームレバーを軽く動かすとゆっくり、さらに動かすと速くズームします。

ご注意

- ズームレバーから急に指を離さないでください。操作音が記録される場合があります。
- 液晶画面の W/T では、ズームする速さを変えることはできません。
- ピント合わせに必要な被写体との距離は、広角は約1cm以上、望遠は約80cm以上です。
- [手ブレ補正]が[アクティブ]以外のときは、下記の倍率までの光学ズームができます。
  - HDR-PJ20/XR160：30倍
  - HDR-PJ40V：12倍

ちょっと一言

- さらにズームするには、[デジタルズーム]（76ページ）を使ってください。

カメラまかせでかんたんキレイに撮影する（おまかせオート）

本機を撮影したい対象に向けると、顔認識、シーン認識、手ブレ検出の3種類の検出機能を組み合わせて、最適な撮影を行います（お買い上げ時の設定は[入]）。
シーンなどを検出すると対応するアイコンが表示されます。

動画、静止画の撮影画面で、画面右下の iAUTO →[入]／[切]→ OK をタッチする。

顔認識

（人物）、（赤ちゃん）
顔を検出して、顔部分が最適になるようにフォーカス/色/露出を調節します。

シーン認識

（逆光）、（風景）、（夜景）、（スポットライト）、（低照度）、（マクロ）
撮影シーンに合わせて、最適な撮影設定に切り替わります。

手ブレ検出

（歩き）、（三脚）
手ブレの状態を感知して、撮影に最適な設定に切り替わります。

ご注意

- 撮影状況によっては、認識や検出が希望どおりに働かない場合があります。
- 認識されたシーンによっては、フラッシュが発光しない場合があります（HDR-PJ40V）。

ハイビジョン画質（HD）／標準画質（STD）を設定する

本機では、高精細な映像を楽しめるハイビジョン画質（HD）と、再生機器との互換性にすぐれた標準画質（STD）の2種類から画質を選べます（お買い上げ時の設定は、[HD HD画質]）。撮影する場面や再生機器に合わせて、お好みの画質を選んでください。

1 MENU（メニュー）→[画質・画像サイズ]→[HD / STD 設定]をタッチする。

2 ハイビジョン画質（HD）で撮影するときは[HD HD画質]、標準画質（STD）で撮影するときは[STD STD画質]をタッチする。

3 OK → OK をタッチする。

記録される画質が切り替わります。

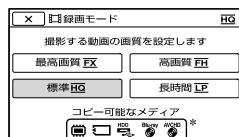
ちょっと一言

- 設定した画質でのみ、記録、再生、編集が可能です。別の画質で記録、再生、編集したいときは、画質を設定しなおしてください。

録画モードを選ぶ

ハイビジョン画質（HD）では録画モードを選んで記録する画質を切り換えることができます。録画モードによって記録メディアへの録画可能時間が変わります（お買い上げ時の設定は[標準 HQ]）。

1 MENU（メニュー）→[画質・画像サイズ]→[録画モード]をタッチする。

2 お好みの設定をタッチする。

[フレームレート]によって、選択できる録画モードが異なります。（81ページ）

* 保存できないメディアのアイコンに⊘が表示されます。

3 OK をタッチする。

応用操作

録画モードと保存できるメディア

録画モードの設定によって、記録した動画を保存できるメディアが異なります。
他機への保存方法については56ページをご覧ください。

保存できるメディア	録画モード		
	PS*	FX	FH/HQ/LP
本機			
内蔵記録メディア	○	○	○
メモリーカード	○	○	○
他機			
外付けメディア	○	○	○
ブルーレイディスク	–	○	○
AVCHD記録ディスク	–	–	○

* [フレームレート](81ページ)が60pのときに設定できます。

ちょっと一言

- ハイビジョン画質(HD)のPSモードは1920×1080/60pになります。FX、FHモードではAVCHD規格の1920×1080/60iまたは1920×1080/24p(HDR-PJ40V)になります。HQ、LPモードではAVCHD規格の1440×1080/60iになります。
- ハイビジョン画質(HD)の画質は次のとおりです。
  - [60p 画質 PS] (AVC HD 28M(PS))
  - [最高画質 FX] (AVC HD 24M(FX))
  - [高画質 FH] (AVC HD 17M(FH))
  - [標準 HQ] (AVC HD 9M(HQ))
  - [長時間 LP] (AVC HD 5M(LP))
- 標準画質(STD)の画質は次の数値に固定されます。
  - [標準 HQ] (STD 9M(HQ))
- 24Mなどの「M」は「Mbps」のことです。

追尾フォーカス機能を使う

被写体をタッチすると、本機が自動的に被写体を追尾して撮影します。

顔枠部をタッチしたとき

顔枠が二重枠になり、フォーカス/色/露出を自動的に調整します。

顔枠部以外の被写体をタッチしたとき

二重枠が表示され、フォーカスを自動的に調節します。

追尾したい被写体をタッチ

二重枠が表示される

解除するには、画面右の ×/ をタッチする。

ご注意

- 周囲の明るさ、被写体の髪型などによってタッチした被写体が正しく検出できないことがあります。この場合は、撮影するときにもう一度タッチしてください。
- 顔枠部を追尾したいときは、あらかじめ[顔検出](77ページ)(お買い上げ時の設定は[オート])を[切]以外に設定してください。

ちょっと一言

- スマイル検出の対象となる顔の二重枠はオレンジ色になります。
- タッチした顔が画面から消えた場合は、[顔検出]（77ページ）で設定した被写体を優先します。タッチした顔が画面に戻った場合は、タッチした顔が優先になります。

笑顔を自動で撮影する（スマイルシャッター）

人物の笑顔を検出して自動的に静止画を記録します（お買い上げ時の設定は[動画撮影中のみ]、77ページ）。スマイル検出の対象となる顔にはオレンジ色の枠がつきます。

ご注意

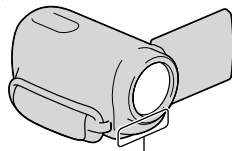
- [▯ フレームレート]を[60i]／[最高画質 FX]または[60p]／[60p画質 PS]に設定しているときは、動画撮影中にスマイルシャッターが動作しません。また、[24p]に設定しているときは、スマイルシャッターが動作しません（HDR-PJ40V）。
- 撮影環境や、被写体の状態、設定によっては、笑顔を検出できないことがあります。

ちょっと一言

- [顔検出]（77ページ）で顔検出とスマイル検出の対象被写体を設定できます。液晶画面に表示された顔枠にタッチして優先する被写体を選んだ場合は、二重枠が表示されている被写体が優先になります。
- 笑顔が検出できない場合は、[スマイル検出感度]（77ページ）の設定をしてください。

臨場感のある音で記録する（5.1chサラウンド記録）

内蔵マイクでドルビーデジタル5.1chサラウンドの音声を記録できます。5.1chサラウンドに対応した機器で再生すると、臨場感あふれる音を楽しめます。

DOLBY DIGITAL 5.1 CREATOR

ご注意

- 本機で5.1ch音声を再生すると、2chに変換されて出力されます。
- ハイビジョン画質（HD）で記録した5.1chサラウンド音声を楽しむには、5.1chサラウンドに対応した機器が必要です。
- HDMIケーブル（別売）で接続すると、5.1ch音声で記録したハイビジョン画質（HD）の動画は、自動的に5.1ch音声で出力されます。標準画質（STD）の動画は、2ch音声に変換して出力されます。

ちょっと一言

- 記録する音声を[5.1chサラウンド]（♪5.1ch）、[2chステレオ]（♪2ch）から選択できます（[オーディオモード]、79ページ）。
- 本機で記録した動画を付属のソフトウェア「PMB」を使ってディスクに保存し、ホームシアターなどで再生すると、臨場感あふれる音を楽しめます。

応用操作

動画を撮りながら静止画を撮る（デュアル記録）

動画撮影中にPHOTOボタンを押すと、静止画を撮影できます。

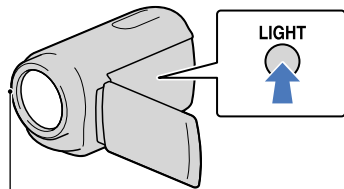
ご注意

- 動画撮影モードではフラッシュ撮影ができません（HDR-PJ40V）。
- 記録メディアの容量不足時や、連続して静止画を撮影すると、 が表示されることがあります。表示されている間は撮影できません。
- [録画モード]や、[フレームレート]の設定によっては、 が表示されてデュアル記録ができない場合があります。

ちょっと一言

- MODEランプが （動画）のとき、静止画の画像サイズは以下のとおりとなります。
  - HDR-PJ20/XR160：[3.0M](16:9)、[2.2M](4:3)
  - HDR-PJ40V：[5.3M](16:9)、[4.0M](4:3)
- 撮影スタンバイ中は （静止画）ランプ点灯時と同様に静止画を記録できます。ただし、[フレームレート]を[24p]に設定しているときは、動画撮影モードで静止画を撮影できません（HDR-PJ40V）。

ビデオライトを使う（HDR-PJ40V）

撮影状況に応じてビデオライトを使うことができます。被写体とは約0.3 mから1.5 mほどの距離をとってお使いください。

LEDビデオライト

LIGHTボタンを押すたびに下記のように表示が切り替わります。

表示なし（切）→ AUTO（オート）→ （入）→ ...

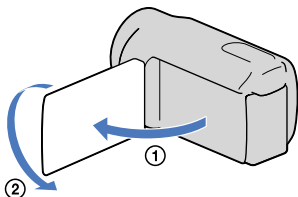
ビデオライトを消すには、LIGHTボタンを押して表示を消す。

ご注意

- ビデオライトは非常に明るい光です。至近距離から直接目に光を向けて使用しないでください。
- ビデオライト点灯中は、バッテリーが早く消耗します。

ちょっと一言

- [ビデオライト明るさ]（80ページ）で明るさの調節ができます。
- ビデオライトの設定が AUTO（オート）のとき、頻繁に点灯や消灯を繰り返すことがあります。この場合は、LIGHTボタンを押して、設定を （入）にしてください。
- 静止画撮影時は、ビデオライトが消灯しフラッシュとして使用できます。

自分撮り（対面撮影）する

液晶画面を90°まで開いてから（①）、レンズ側に180°回します（②）。

ちょっと一言

- 液晶画面には左右反転で映りますが、実際には左右正しく録画されます。

名場面集を楽しむ（ハイライト再生）

ハイビジョン（HD）画質で撮影した動画や静止画のハイライトシーンを自動的に選び、BGMや効果つきで再生します。撮影した動画をダイジェストで楽しみたいときに便利です。
気に入ったハイライトは繰り返し見ることのできるシナリオとして保存できます。また画像を変換して、ウェブにアップロードしたり、配布用DVDを作成するなど画像の共有を簡単に行うことができます。

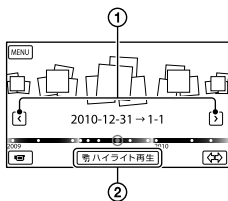
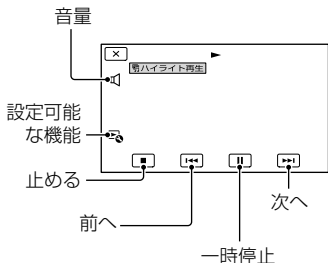
ちょっと一言

- 再生中の画面でをタッチすると、その状況で使える機能を表示して、気軽に設定できます。

1 本機の液晶画面を開く。

2 （画像再生）ボタンを押す。

3 </>（①）で見たいイベントを選び、[ハイライト再生]（②）をタッチする。

イベントビューの中央に表示されているイベントのハイライト再生を行います。

ハイライト再生中の画面

再生を止めるには

一時停止はを、中止するときはをタッチする。

もう一度最初から見るには

ハイライト再生終了後の画面で[もう一回見る]をタッチする。

ご注意

- 再生されるシーンは、ハイライト再生をするたびに異なります。

ハイライト再生の設定を変更する

ハイライト再生するときの各種設定を行います。

ハイライト再生中の画面で、→[ハイライト再生設定]をタッチする。

次の項目を設定できます。

- [再生範囲]
  ハイライト再生の再生範囲を設定します。開始イベントと終了イベントを選んで OK をタッチしてください。マップビュー（HDR-PJ40V）から設定する場合は、開始日と終了日を選んでください。
  再生範囲が設定されていないときは、イベントビューで選択されているイベントの日付が再生範囲になります。
- [テーマ]
  ハイライト再生のテーマを選択します。テーマによってBGMが自動的に選ばれます。
- [BGM]
  お好みの音楽をBGMに選択したり、追加したりすることができます。
- [再生時間]
  ハイライト再生の長さを設定します。
- [音声ミックス]
  撮影時の音声をBGMと組み合わせて再生します。 < / > をタッチしてバランスを調節します。
- [ハイライトポイント]
  ハイライト再生に抽出されるシーンを設定します。
  画像を再生してください。動画と静止画で手順が異なります。
  動画：再生中、ポイントを設定したい場面で II → OK をタッチする。
  静止画：静止画を再生し、 OK をタッチする。

ご注意

- マップビューの場合は、ハイライトポイントは設定できませんが、イベントビューで設定したポイントはマップビューでも有効になります（HDR-PJ40V）。
- ハイライト再生時の音声は2chステレオに変換されます。
- ハイライト再生を終了すると、[再生範囲]は解除されます。
- テレビなどに接続してハイライト再生、ハイライトシナリオ再生を行うときは、本機の液晶画面に画像は表示されません。

ちょっと一言

- ハイライト再生終了後の画面でもハイライト再生設定を選択できます。
- 付属のソフトウェア「PMB」や、「PMB」と同時にインストールされるソフトウェア「Music Transfer」を使ってお手持ちの音楽CDやMP3ファイルからお好みの曲（BGMファイル）を本機に転送し、ハイライトとともに再生できます。詳しくは「PMBヘルプ」をご覧ください。
- BGMファイルが破損するなどして再生ができない場合は、MENU（メニュー）→[セットアップ]→ ▶（再生設定）の[BGMデータ消去]を行ってから、あらためてBGMファイルを本機に転送し直してください。本機にあらかじめ収録されているBGMデータは「Music Transfer」を使って復元できます。操作方法は、「Music Transfer」のヘルプをご覧ください。

気に入ったハイライトを何度も楽しむ（ハイライトシナリオ保存）

ハイライト再生中の画面で →[シナリオ保存] → OK をタッチする。

保存したシナリオを再生するには

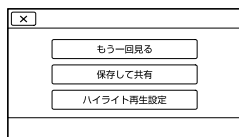
MENU（メニュー）→[再生機能] →[シナリオ再生]で再生したいシナリオを選び、 OK をタッチする。

保存したシナリオを消去するには

シナリオ再生終了後の画面で[シナリオ消去]をタッチする。または、再生中の画面でボタンをタッチし、[消去]を選択する。

ハイライトやハイライトシナリオを変換して共有する

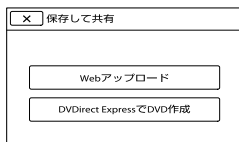
再生したハイライトや保存したシナリオを変換して、DVDを作成したり、ウェブにアップロードしやすいデータ(ハイライト動画)に変換することができます。

1 ハイライトまたはシナリオ再生終了後の画面で[保存して共有]をタッチする。

- 再生中の画面でボタンをタッチして選択することもできます。

2 OK をタッチする。

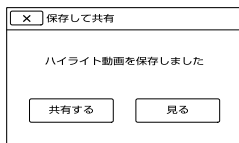
画像の変換が始まります。

ウェブにアップロードするには

手順2のあと、[共有する] → [Webアップロード]をタッチして、画面の指示にしたがって操作する。

DVDirect ExpressでDVDを作成するには

手順2のあと、[共有する] → [DVDirect ExpressでDVD作成]をタッチして、画面の指示にしたがって操作する。

ハイライト動画をもう一度見るには

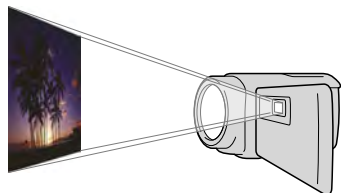
手順2のあと、[見る]をタッチする。

ハイライト動画を一覧から選んで見るには

MENU (メニュー) → [再生機能] → [ハイライト動画]で再生したいハイライト動画をタッチする。

ご注意

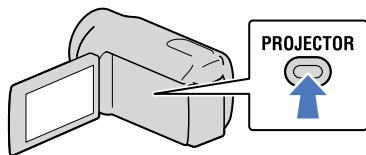
- 変換した画像は標準画質(STD)になります。

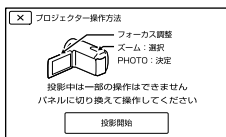
内蔵プロジェクターを使って再生する (HDR-PJ20/PJ40V)

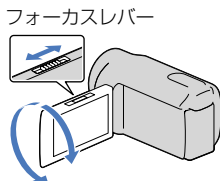
テレビなどの再生環境がない場所で、多人数で楽しむときに便利です。

1 (画像再生)ボタンを押す。

2 </>で見たいイベントを選び、タッチする。

中央のイベントをタッチすると、イベントインデックス画面が表示されます。

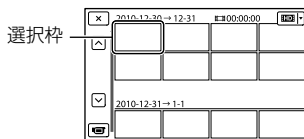
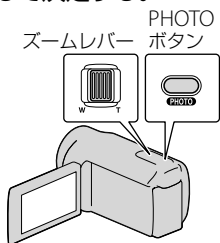
3 PROJECTORボタンを押す。

電源を入れたあと、最初のプロジェクター使用時のみ液晶画面にプロジェクターの操作ガイドが表示されます。

4 [投影開始]をタッチして、プロジェクターを起動する。

液晶画面が消灯し、プロジェクターが起動します。

5 液晶画面やフォーカスレバーを動かして、投影されている画像を調節する。

6 本機のズームレバーで再生したい画像を選び、PHOTOボタンを押して決定する。

選択枠

2010-12-30→12-31 00:00:00

2010-12-31→1-1

ズームレバー：選択枠を移動します。
PHOTO：選択枠を実行します。

プロジェクターを消すには

PROJECTORボタンをもう一度押します。

ワイヤレスリモコンを使って操作するには

◀/▶/▲/▼：投影されている画像の選択枠を移動します。

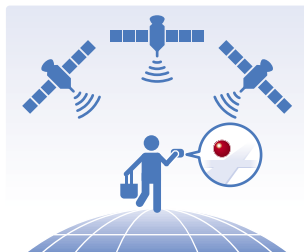
決定：選択枠を実行します。

ご注意

- プロジェクター使用中は次のことにご注意ください。
  - 目に向けて投影しないでください。
  - 発光部を触らないでください。
  - 液晶画面部とプロジェクターレンズ部が熱くなります。
  - バッテリーの使用可能時間が短くなります。
- プロジェクター使用中は次のことができません。
  - タッチパネルの操作
  - 地図の操作（HDR-PJ40V）
  - ハイライト再生中にテレビなどに出力
  - 液晶画面を閉じての使用
  - その他一部の機能
- 本機と映像を投影する面との推奨距離は、約0.5 mから3 mです。
- ACアダプターのご使用をおすすめします。

GPS機能を使いこなす（HDR-PJ40V）

GPS機能を使うと、次のことができます。

位置情報を記録

地図から画像を探して再生

現在地の地図を表示

ご注意

- 電波が受信できるように、屋外の開けた場所でご使用ください。

ちょっと一言

- 地図は常に北を上に表示します。
- 地図表示の縮尺は、ズームレバーで変更できます。
- 地図表示をスクロールするには、見たい方向をタッチしてください。連続でスクロールするには、押したままにしてください。

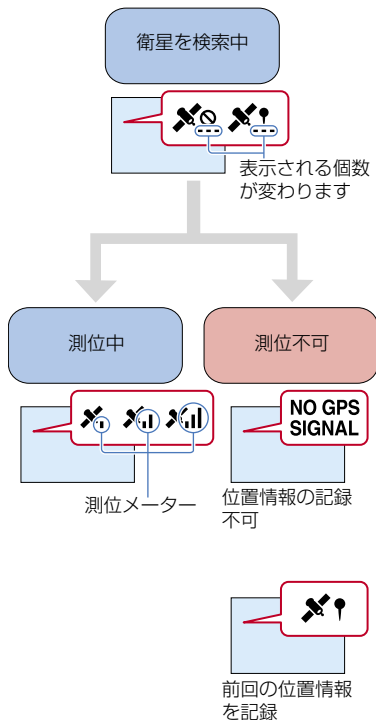
初めて地図データを使うときは

地図データの使用許諾に同意するかを確認するメッセージが表示されます。本機に同梱の地図データ使用許諾契約書に同意の上で、画面上の[はい]をタッチしてください。
この場合、2回目以降は確認メッセージは表示されません。
[いいえ]をタッチした場合は地図データを使用できませんが、2回目に地図データを使う場合に同じメッセージが画面に表示されますので、[はい]をタッチして地図データを使用することができます。

位置情報を記録する

お買い上げ時の設定では、動画や静止画の撮影時に位置情報を記録します。

GPSの測位状況

前回の位置情報を記録

ご注意

- 測位中になるまで数分かかることがあります。

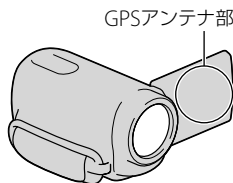
位置情報を記録しないときは

MENU（メニュー）→[セットアップ]→[（一般設定）]の[GPS]を[切]にする。

電波を受信するポイント

屋外の広い場所で使う

電波が届かない場所や状況の例については、106ページをご覧ください。

GPSアンテナ部を手でおおわない

測位優先モードを使う（44ページ）

GPSアシストデータを使う

付属のソフトウェア「PMB」でGPSアシストデータを本機に取り込むと、位置情報を取得するまでの時間を短くすることができます。インターネットに接続された状態でパソコンと本機をつないでください。自動的にGPSアシストデータが更新されます。

ご注意

- 次のときはGPSアシストデータが働かないことがあります。
  - GPSアシストデータを約30日以上更新していないとき
  - 本機の日時あわせを正しく設定していないとき
  - 長距離を移動したとき

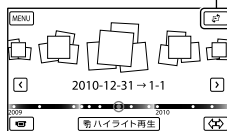
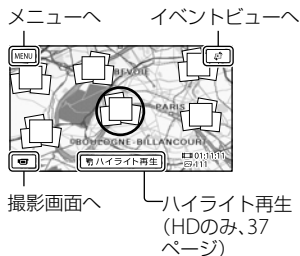
ちょっと一言

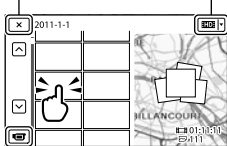
- 本機に収録のソフトウェア「PMB Portable」でもGPSアシストデータを更新できます。

撮影位置から見たい場面を探す（マップビュー）

1 （画像再生）ボタンを押す。

イベントビュー画面が表示されます。

2 → [マップビュー]をタッチする。

3 再生したい動画・静止画を撮影した地図エリアにあるサムネイルをタッチする。

- 地図の写真以外の場所をタッチすると表示が移動します。
- ズームレバーで地図の縮尺を変えると、マップビューの単位も変化します。

4 [はい]→再生したい動画・静止画をタッチする。

ご注意

- マップビューの単位で削除などの編集操作を行うことはできません。

ちょっと一言

- 再生中に緯度経度データを表示するには、85ページをご覧ください。

現在地の地図を表示する

旅先などで地図を見たいときに便利です。

撮影画面で、MENU（メニュー）→[セットアップ]→[（一般設定）]→[現在地表示]をタッチする。

- 地図をタッチすると、表示が移動します。もう一度現在地マーカーを表示するには、をタッチします。
- 位置情報が受信できないときは、測位優先モード画面が表示されます（44ページ）。
- 前回の測位位置が無効の場合は、現在地マーカーが表示されません。

終了するには

✕をタッチする。

ちょっと一言

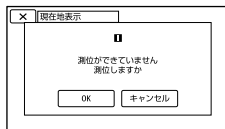
- お買い上げ時の設定では、自動で時刻や時差を補正します（90ページ）。

優先的に位置情報を受信する（測位優先モード）

他の機能を停止して衛星を探索するので、測位情報を受信しやすくなります。

1 現在地を表示する（44ページ）。

表示された場合は、手順2以降の操作は不要です。

2 OKをタッチする。

測位が完了すると測位情報画面が表示されます。

取得情報の見かた

衛星表示/測位ゲージの色	状態
●/■(黒)	信号なし/軌道情報あり
●/■(グレー)	軌道情報33%取得済み
●/■(茶色)	軌道情報66%取得済み
●/■(黄土色)	軌道情報99%取得済み
●/■(緑)	測位利用中

位置情報が受信できなかったときは

再度測位を促す画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

測位情報画面を閉じるには

✕ をタッチする。

ちょっと一言

- 次のときは、最大で数百メートルの測位の誤差を生じる場合があります。
  - 周囲の建物などで反射したGPSの電波を受信したとき
  - 受信したGPSの電波が弱いとき

本機で編集する

動画・静止画を削除する

不要な動画・静止画を削除すると、削除した分の記録メディアの容量を元に戻すことができます。

ご注意

- いったん削除した画像は元に戻せません。大切な動画・静止画は、あらかじめ保存してください。
- 削除中は、本機からバッテリーやACアダプターを取り外さないでください。記録メディアが壊れるおそれがあります。
- メモリーカードに記録した画像の削除中はメモリーカードを抜かないでください。
- プロテクトされた動画・静止画は削除できません。削除するにはプロテクトを解除してください(47ページ)。
- デモンストレーション用の動画はプロテクトされています。
- 削除したい動画・静止画が、保存されたシナリオ(38ページ)に含まれている場合は、画像が含まれているシナリオが削除されます。

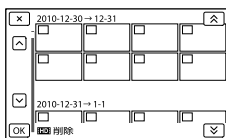
ちょっと一言

- イベントインデックスからの再生画面の場合 🗑 からも行えます。
- 記録メディアに保存されているすべての画像を削除して記録容量を元に戻す場合は、フォーマットしてください(84ページ)。
- インデックス画面のように多数の画像を一覧表示するために縮小された画像のことを「サムネイル」といいます。

1 MENU(メニュー)→[編集・コピー]→[削除]をタッチする。

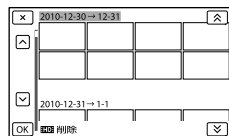
2 画像を選択して削除するときは、[画像選択]→[HD 動画]/[静止画]/[動画/静止画]をタッチする。

- [HD/STD 設定](33ページ)で標準画質(STD)を選択しているときは、HD の代わりに STD が表示されます。

3 削除したい動画・静止画をタッチして、✔を付ける。

- サムネイルを長押しするとプレビューできます。 ✕ で選択画面に戻ります。

4 OK → OK → OK をタッチする。

動画・静止画をイベントごとにまとめて削除するには

① 手順2で[イベント内全て]をタッチする。

② ⌃/⌄ をタッチして、削除したいイベントを選んで、OK をタッチする。
- サムネイルをタッチするとプレビューできます。 ✕ で選択画面に戻ります。

③ OK → OK をタッチする。

記録した画像を保護する(プロテクト)

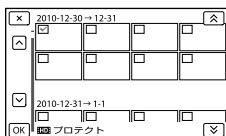
動画・静止画を誤って削除してしまうことを防ぐことができます。
プロテクトされた画像には⊶マークがつきます。

1 MENU(メニュー)→[編集・コピー]→[プロテクト]をタッチする。

2 画像を選択してプロテクトするときは、[画像選択]→[HD 動画]/[静止画]/[動画/静止画]をタッチする。

- [HD/STD 設定](33ページ)で標準画質(STD)を選択しているときは、HD の代わりに STD が表示されます。

3 **プロテクトする動画・静止画をタッチする。**

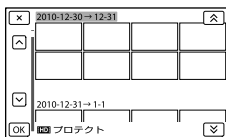
画像に✔マークがつきます。

- サムネイルを長押しすると、プレビューできます。 ✕ で選択画面に戻ります。

4 **OK → OK → OK をタッチする。**

プロテクトを解除するには

手順3で✔マークがついている動画・静止画をタッチする。
✔マークが消えます。

撮影したイベントごとにまとめてプロテクトするには

① 手順2で[イベント内全て設定]をタッチする。

② ⌃/⌄ をタッチして、プロテクトしたいイベントを選んで、OK をタッチする。
- サムネイルをタッチすると、プレビューできます。 ✕ で選択画面に戻ります。

③ OK → OK をタッチする。

撮影したイベントごとにプロテクトを解除するには

手順2で[イベント内全て解除]をタッチして、プロテクトを解除したいイベントを選び、OK → OK → OK をタッチする。

画像をコピーする

本機を使って内蔵記録メディアとメモリーカード間で画像をコピーできます。メモリーカードを本機に入れておいてください。

ご注意

- 初めてメモリーカードに画像を記録するときは、MENU（メニュー）→[セットアップ]→[（メディア設定）]→[管理ファイル修復]→[メモリーカード]で管理ファイルを作成してください。
- 途中で電源が切れないように、付属のACアダプターを使ってコンセントから電源を取ってください。

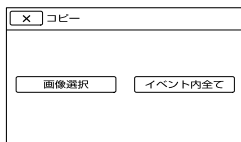
ちょっと一言

- コピーしても、元の画像は削除されません。
- 本機で撮影して記録された画像を「オリジナル」といいます。

1 **MENU（メニュー）→ [編集・コピー] → [コピー]をタッチする。**

メディア選択画面が表示されます。

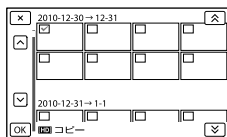
2 **コピー元とコピー先のメディアをタッチする。**

HDR-PJ20/PJ40V
[内蔵メモリー→メモリーカード]
[メモリーカード→内蔵メモリー]
HDR-XR160
[HDD→メモリーカード]
[メモリーカード→HDD]
[コピー]画面が表示されます。

3 **コピーの種類をタッチする。**

[画像選択]：画像を選んでコピーする。
[イベント内全て]：指定したイベントの画像をまとめてコピーする。

4 **コピーする画像の種類をタッチする。**

5 **コピーする画像を選ぶ。**

[画像選択]：コピーする動画をタッチして、✔マークをつける。複数選択できます。

- サムネイルを長押しするとプレビューできます。 ✕ で選択画面に戻ります。

[イベント内全て]：コピーするイベントを選んで、 OK をタッチする。複数のイベントは選べません。

6 **OK → OK → OK をタッチする。**

ちょっと一言

- コピーができているかを確認するには、[メディア切換]でコピー先のメディアを設定して確認してください(18ページ)。
- 本機で撮影した画像を外付けメディアにもコピーできます(58ページ)。

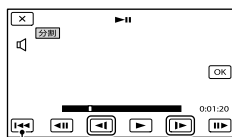
動画を分割する

撮影した動画を分割することができます。不要な部分を削除するときなどに使います。

1 **動画の再生中に表示されている → [分割]をタッチする。**

2 **▶ ボタンをタッチして、分割したいところで ‖ をタッチする。**

再生が一時停止します。

3 **◀‖/‖▶ で分割位置を微調整する。**

選んだ動画の先頭に戻る

4 OK → OK をタッチする。

ご注意

- いったん分割した動画は元に戻せません。
- プロテクトされた動画は分割できません。分割するにはプロテクトを解除してください(47ページ)。
- 分割中は、本機からバッテリーやACアダプターを取り外さないでください。記録メディアが壊れるおそれがあります。
- メモリーカードに記録された動画の分割中はメモリーカードを抜かないでください。
- 本機では約0.5秒ごとに分割点を検出するため、II で決定した分割点と実際の分割点とでは若干のずれが生じることがあります。
- 分割したい動画が、保存されたシナリオ(38ページ)に含まれている場合は、画像が含まれているシナリオが削除されます。
- 本機では、簡易的な編集ができます。さらに編集する場合には、付属のソフトウェア「PMB」をお使いください。

動画から静止画を作る

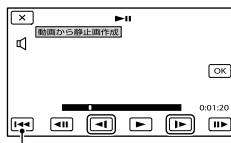
撮影した動画から静止画を切り出すことができます。

1 動画の再生中に表示されている → [動画から静止画作成]をタッチする。

[動画から静止画作成]画面が表示されます。

2 ▶ ボタンをタッチして、静止画にしたい場面で II をタッチする。

再生が一時停止します。

3 ◀I/I▶ で静止画を作成したい位置を微調整する。

選んだ動画の先頭に戻る

4 OK をタッチする。

静止画の記録が完了すると一時停止の状態に戻ります。

ご注意

- 静止画の画像サイズは、動画の種類によって次のとおりに固定されます。
  - ハイビジョン画質(HD)のときは[2.1M](16：9)
  - 標準画質(STD)でワイド(16：9)のときは[0.2M](16：9)
  - 標準画質(STD)で4：3のときは[VGA(0.3M)](4：3)
- 記録メディアに空き容量がないと実行できません。
- 作成された静止画の撮影日時は、元の動画の撮影日時と同じ日付になります。
- 日付時刻データがない動画から静止画を作成した場合、静止画の撮影日時は作成日時と同じ日付になります。

ディスクの作りかたを選ぶ(パソコン)

ハイビジョン画質(HD)で撮影した動画や、静止画からディスクを作成する方法を説明します。再生機器に合わせて作りかたを選びましょう。

ディスクの種類	作りかた	再生機器
Blu-ray ハイビジョン画質(HD)で残したい	① パソコンに保存する(53ページ)。 ↓ ② ブルーレイディスク*を作る(55ページ)。	**ブルーレイディスク再生機器** (ソニー製ブルーレイディスクプレーヤー、プレイステーション 3など)
DVD ハイビジョン画質(HD)で残したい	ワンタッチでディスクを作る(ワンタッチディスク)。	**AVCHD規格対応再生機器** (ソニー製ブルーレイディスクプレーヤー、プレイステーション 3など)
	① パソコンに保存する(53ページ)。 ↓ ② AVCHD記録ディスクを作る(54ページ)。	
DVD 標準画質(STD)で記録して残したい	① パソコンに保存する(53ページ)。 ↓ ② 標準画質(STD)のディスクを作る(54ページ)。	**一般的なDVD再生機器** (DVDプレーヤー、DVD再生可能なパソコンなど)

* ブルーレイディスクを作成するには、BD アドオン ソフトウェアをインストールする必要があります(55ページ)。

「PMB」で使えるディスクの種類

「PMB」では以下の12cmのディスクを使えます。ブルーレイディスクについては、55ページをご覧ください。

ディスクの種類	特徴
DVD-R / DVD+R / DVD+R DL	書き換えできません。
DVD-RW / DVD+RW	書き換えて再利用できます。

ご注意

- 「プレイステーション 3」のシステムソフトウェアは常に最新版にアップデートしてお使いください。
  アップデートの詳細は、株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントのウェブサイトをご覧ください。
  http://www.jp.playstation.com/ps3/update/

ワンタッチでディスクを作る
（ワンタッチディスク）

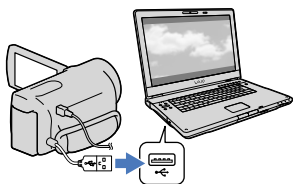
本機で撮影した動画・静止画のうち、まだワンタッチディスク機能を使ってディスクに保存していない動画・静止画を自動的に選んで保存します。画質は撮影したときの画質で保存されます。

ご注意

- ハイビジョン画質（HD）（お買い上げ時の設定）で撮影した動画の場合は、AVCHD記録ディスクが作成されます。
- [録画モード]を[最高画質 FX]または[60p画質 PS]にして撮影した動画から、AVCHD記録ディスクは作成できません。
- ワンタッチディスクで、ブルーレイディスク作成はできません。
- ハイビジョン画質（HD）の動画から標準画質（STD）のディスクを作成する場合は、いったん動画をパソコンに保存して（53ページ）から、標準画質（STD）のディスクを作成してください。
- あらかじめ「PMB」をインストールしてください。ただし、「PMB」は起動しないでください。
- 本機の電源は、ACアダプターを使ってコンセントから取ってください（14ページ）。
- 本機のワンタッチディスク機能では、[メディア切換]によって設定された記録メディアに記録された動画・静止画のみ保存できます。

1 パソコンの電源を入れ、DVDドライブに未使用のディスクを入れる。

- 使用できるディスクの種類は50ページをご覧ください。
- 「PMB」以外のソフトウェアが自動で起動した場合は終了してください。

2 本機の電源を入れ、ビルトインUSBケーブルで本機とパソコンをつなぐ。

3 本機の液晶画面の[ワンタッチディスク]をタッチする。

4 パソコンの画面の指示に従って操作する。

ご注意

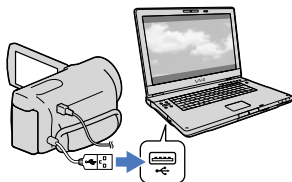
- ワンタッチディスクでは、パソコンに動画・静止画は保存されません。

パソコンに保存する

本機で撮影した動画・静止画をパソコンに取り込みます。パソコンの電源は入れておきます。

ご注意

- 本機の電源は、ACアダプターを使ってコンセントから取ってください（14ページ）。

1 本機の電源を入れ、ビルトインUSBケーブルで本機とパソコンをつなぐ。

本機の液晶画面に［USB機能選択］画面が表示されます。

2 本機の液晶画面で、［USB接続］をタッチする。

- ［メディア切換］で保存したい記録メディアを設定しておいてください。
- ［USB機能選択］画面が表示されないときは、MENU（メニュー）→［セットアップ］→［⇄（接続）］→［USB接続］をタッチする。

パソコンの画面に取り込み画面が表示されます。
取り込み先を変更したいときは、［PMB］→［ツール］→［設定］→［取り込み先］→［参照］で取り込みたい場所を選択してください。

3 ［取り込み開始］をクリックする。

- 詳しくは、「PMBヘルプ」をご覧ください。

取り込みが始まります。
取り込みが完了すると、「PMB」画面が表示されます。

ちょっと一言

- パソコンに取り込んだハイビジョン画質（HD）の動画は、パソコンから本機に書き戻せます。
  本機とパソコンをUSB接続し、書き戻し対象の機器を選び、書き戻したい動画を選択した後［活用］メニューの［書き出し］→書き出し先のドライブを選択→［書き出し開始］をクリック→書き出し完了の画面が出たら［OK］をクリックします。

ディスクに保存する

パソコンに取り込んだ(53ページ)動画を選んで、ディスクに保存できます。

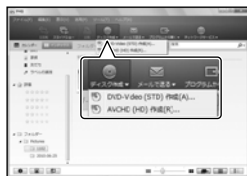
1 パソコンの電源を入れ、DVDドライブに未使用のディスクを入れる。

- 使用できるディスクの種類は51ページをご覧ください。
- 「PMB」以外のソフトウェアが自動で起動した場合は終了してください。

2 「PMB」を起動する。

3 [カレンダー][インデックス]をクリックして日付やフォルダーを選び、書き込む動画を選ぶ。

- ハイビジョン画質(HD)の動画にはHDアイコンが付いています。
- Ctrlキーを押しながらサムネイルをクリックすると複数の動画を選べます。

4 (ディスク作成)をクリックして、作成したいディスクを選ぶ。

動画の選択画面が表示されます。

AVCHD (HD)作成	DVDにハイビジョン画質で保存します。
DVD-Video (STD)作成	DVDに標準画質で保存します。動画の素材としてハイビジョン画質(HD)の動画を選べますが、その場合は標準画質(STD)に変換するために記録時間以上の時間がかかります。

- 動画を選択したいときは、メイン画面で追加する動画を選び、動画の選択画面にドラッグアンドドロップします。

5 画面の指示に従ってディスクを作成する。

- ディスクの作成には時間がかかることがあります。

AVCHD記録ディスクをパソコンで再生するには

「PMB」と同時にインストールされる「Player for AVCHD」を使って再生できます。

「Player for AVCHD」を起動するには

[スタート]→[すべてのプログラム]→[PMB]→[PMBランチャー]→[見る]→[Player for AVCHD]の順にクリックします。操作方法は「Player for AVCHD」のヘルプをご覧ください。

ご注意

- パソコンの環境によっては、動画がなめらかに再生できないことがあります。

ブルーレイディスクを作るには

パソコンに取り込んだ(53ページ)ハイビジョン画質(HD)の動画から、ブルーレイディスクを作成できます。
作成するにはBD アドオンソフトウェアをインストールする必要があります。
「PMB」のインストール画面で[BDアドオンソフトウェア]をクリックし、画面の指示に従って、インストールしてください。

- インストールには、お使いのパソコンをインターネットに接続する必要があります。

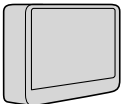
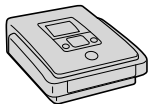
「ディスクに保存する」(54ページ)の手順1で、ディスクドライブに未使用のブルーレイディスクを入れ、手順4で (ディスク作成)→[Blu-ray Disc(HD)作成]をクリックします。他の操作手順は同じです。

ご注意

- お使いのパソコンが、ブルーレイディスク作成に対応している必要があります。
- ディスクは、BD-R(書き換え不可)、BD-RE(書き換え可)が使えます。追加記録はできません。

ディスクをコピーするには

「Video Disc Copier」を使って、記録済みのディスクをコピーできます。
[スタート]→[すべてのプログラム]→[PMB]→[PMBランチャー]→[ディスク作成]→[Video Disc Copier]の順にクリックして起動します。操作方法は「Video Disc Copier」のヘルプをご覧ください。

ご注意

- ハイビジョン画質(HD)の動画を標準画質(STD)に変換してコピーはできません。
- ブルーレイディスクはコピーできません。

他機を使った保存のしかたを選ぶ

ハイビジョン画質（HD）で撮影した動画を保存する方法を説明します。機器に合わせて保存のしかたを選びましょう。
他機との接続についてはサポートページもご覧ください。
http://www.sony.co.jp/cam/support/

	他機	使うケーブル	ページ
	外付けメディア ハイビジョン画質（HD）で保存。	USBアダプターケーブル VMC-UAM1（別売）	58
	ソニー製ブルーレイディスクレコーダー ハイビジョン画質（HD）でブルーレイディスクレコーダーや、ディスクに保存。	ビルトインUSBケーブル	61
	DVDライター DVDirect Express ハイビジョン画質（HD）でDVDに保存。	DVDirect Expressの内蔵USBケーブル	62
	DVDirect Express以外のDVDライター ハイビジョン画質（HD）または、標準画質（STD）でDVDに保存。	ビルトインUSBケーブル	65
	HDDレコーダーなど 標準画質（STD）でDVDに保存。	A/V接続ケーブル（付属）	66

標準画質（STD）で撮影した動画について

A/V接続ケーブルを使って、保存する機器と接続してください（66ページ）。

ご注意

- ハイビジョン画質（HD）で記録したDVDは、AVCHD規格に対応した機器で再生してください。
- DVDプレーヤーやDVDレコーダーはAVCHD規格に非対応のため、ハイビジョン画質（HD）を記録したDVDを入れないでください。ディスクの取り出しができなくなることがあります。
- コピーやディスク作成の際には、デモンストレーション用の動画を削除してください。削除しないと正しく動作しないことがあります。ただし、削除したデモンストレーション用の動画は元に戻せません。

保存できるメディアについて

34ページをご覧ください。

ディスクを再生できる機器は

ブルーレイディスク

ソニー製ブルーレイディスクプレーヤーや、プレイステーション3などのブルーレイディスク再生機器で、再生できます。

ハイビジョン画質(HD)を保存したDVD

ソニー製のブルーレイディスクプレーヤーや、プレイステーション3などのAVCHD規格対応の再生機器で、再生できます。

標準画質(STD)を保存したDVD

DVDプレーヤーなどの一般的なDVD再生機器で、再生できます。

ご注意

- 「プレイステーション3」のシステムソフトウェアは常に最新版にアップデートしてお使いください。アップデートの詳細は、株式会社ソニー・コンピューターエンタテイメントのウェブサイトをご覧ください。
  http://www.jp.playstation.com/ps3/update/

外付けメディアを使って保存する

外付けハードディスクなどのメディアに、本機の動画・静止画を保存できます。また、保存した画像を本機などで再生して楽しめます。

ご注意

- この操作には別売のUSBアダプターケーブルVMC-UAM1が必要です。
- 本機の電源は、ACアダプターを使ってコンセントから取ってください（14ページ）。
- お使いの外付けメディアの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ちょっと一言

- 外付けメディアに保存した画像は、付属のソフトウェア「PMB」で取り込むこともできます。

外付けメディアに保存後にできること

- 本機を経由した画像の再生（60ページ）
- 「PMB」への取り込み

使用できない外付けメディアについて

次の機器は外付けメディアとして使えません。

- 容量が2TBを超える外付けメディア
- 一般のDVDドライブやCDドライブなどのディスクドライブ
- ハブを経由してつないでいる外付けメディア
- 内部にハブを構成している外付けメディア
- カードリーダー

ご注意

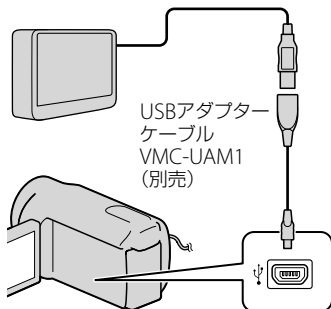
- 暗号機能のある外付けメディアは、使えない場合があります。
- ファイルシステムとしてFATを採用しています。NTFSなど他機でフォーマットされた外付けメディアの場合は、本機でフォーマットしてからお使いください。フォーマット画面は接続時に表示されます。また、FATのメディアでもフォーマット画面が表示されることがあります。接続する機器に大切なデータが残っていないことを確認したうえでフォーマットを行ってください。
- 動作条件に該当するすべての機器の動作を保証するものではありません。
- 使用可能な外付けメディアについて詳しくは、"ハンディカム"のサポート情報（123ページ）をご覧ください。

1 ACアダプターを本機のDC IN端子とコンセントにつなぐ。

2 外付けメディアにAC電源がある場合は、コンセントにつなぐ。

3 USBアダプターケーブルと外付けメディアをつなぐ。

4 USBアダプターケーブルと本機のψ（USB）端子をつなぐ。

［管理ファイル準備中］が表示されている間はUSBケーブルを抜かないでください。また、本機に［管理ファイル修復］画面が表示されたら、OK をタッチしてください。

- ビルトインUSBケーブルでは接続できません。

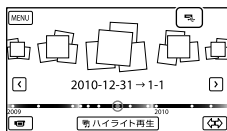
5 外付けメディアと接続して、本機の画面で[コピーする]をタッチする。

[メディア切換]で設定されている記録メディアに記録した画像のうち、外付けメディアに保存されていない画像が保存されます。

- 本機に新たに記録した画像がない場合、できません。

6 終了するには本機の画面で OK をタッチする。

外付けメディアと接続中は

外付けメディアに保存した画像が、本機の画面に表示されます。外付けメディアに記録した画像ではイベントビューなどの画面でUSBアイコンが表示されます。

画像の削除など、外付けメディアに関する設定ができます。イベントビューで MENU(メニュー)→[編集・コピー]をタッチしてください。

接続を終了するには

① 外付けメディアのイベントビューまたは、インデックスで をタッチする。

② USBアダプターケーブルを取り外す。

ご注意

- 外付けメディアに保存可能なシーン数は次のとおりです。外付けメディアに空き容量があっても、これを超えて保存することはできません。
  - ハイビジョン画質(HD)の動画：最大3,999個
  - 標準画質(STD)の動画：最大9,999個
  - 静止画：最大40,000枚

  撮影された画像によっては、保存可能なシーン数が減ることがあります。

好みの動画・静止画を保存する

保存したい画像を選んで保存できます。

1 外付けメディアと接続して、[コピーしないで再生する]をタッチする。

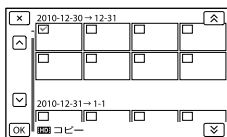
外付けメディアのイベントビューが表示されます。

2 MENU(メニュー)→[編集・コピー]→[コピー]をタッチする。

3 本機の画面にしたがって、記録メディアや画像の選択方法、画像の種別を選ぶ。

外付けメディアから本機へコピーすることはできません。

4 [画像選択]を選んだときは、保存したい画像をタッチする。

✔が表示されます。

- サムネイルを長押しすると、プレビューできます。 ✕ で選択画面に戻ります。
- [イベント内全て]を選んだときは、 ⌃ / ⌄ でコピーするイベントを選んでください。複数のイベントは選べません。

5 本機で OK → OK → OK をタッチする。

外付けメディアの画像を本機で見る

1 外付けメディアと接続して、[コピーしないで再生する]をタッチする。

外付けメディアの画像がイベントビュー画面で表示されます。

2 見たい画像を選んで再生する(25ページ)。

- 本機をテレビにつないで画像を楽しむこともできます(29ページ)。
- ハイビジョン画質(HD)の動画は、「Player for AVCHD」を使ってパソコンで再生できます。「Player for AVCHD」を起動し(54ページ)、[設定]で外付けメディアの接続されているドライブを選んでください。

手動でかんたんコピーする

本機と外付けメディアの接続中に手動でかんたんコピーができます。

① 外付けメディアのイベントビューで MENU (メニュー)→[編集・コピー]→[ダイレクトコピー]をタッチする。

② [コピーしていない画像をコピーします]をタッチする。

③ OK → OK をタッチする。

ご注意

- 本機が外付けメディアを認識しないときは、次の操作を行ってください。
  - USBアダプターケーブルを差し直す。
  - 外付けメディアにAC電源がある場合は、コンセントにつなぐ。

ソニー製ブルーレイディスクレコーダーを使って保存する

ソニー製ブルーレイディスクレコーダーを使って、ブルーレイディスクレコーダーのハードディスクにダビングしたり、ディスクを作成したりできます。
お使いの機器によっては操作が異なる場合がありますので、レコーダーの取扱説明書もあわせてご覧ください。
その他、ブルーレイディスクレコーダーとの接続については、ホームページのサポート情報をご覧ください(123ページ)。

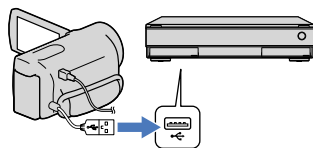
使えるディスク

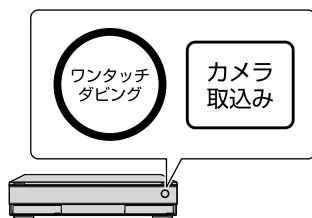
お使いのブルーレイディスクレコーダーによって使えるディスクが異なります。ブルーレイディスクレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- お使いのブルーレイディスクレコーダーの種類によっては、USB端子が無い場合があります。その場合は、A/V接続ケーブルで接続してください(66ページ)。
- [60p画質 PS]にして撮影した動画は、外付けメディアにのみ保存できます(58ページ)。

1 ACアダプターを本機のDC IN端子とコンセントにつなぐ(14ページ)。

2 本機の電源を入れ、ビルトインUSBケーブルで本機とブルーレイディスクレコーダーをつなぐ。

3 本機の画面で、[USB接続]をタッチする。

4 ブルーレイディスクレコーダーの「カメラ取込み」ボタンまたは「ワンタッチダビング」ボタンを押す。

カメラ取り込みがされていない画像が取り込まれます。

- ハイビジョン画質(HD)と標準画質(STD)両方の取り込まれていない動画がある場合は、ハイビジョン画質(HD)のみが取り込まれます。
- ボタンの位置や形状は、レコーダーの種類によって異なります。また、USB端子があっても上記のボタンが搭載されていないレコーダーについてはレコーダーの取説説明書をご覧ください。

5 終了するには、本機の画面で ✕ → OK をタッチする。

6 ビルトインUSBケーブルを取り外す。

ディスクを作る

1 本機の電源を入れ、ビルトインUSBケーブルで本機とブルーレイディスクレコーダーをつなぐ。

2 ブルーレイディスクレコーダーに未使用のディスクを入れて、ディスクトレイを閉じる。

3 本機の画面で、[ワンタッチディスク]をタッチする。

1枚のディスクにおさまらないときは、手順1、2を繰り返す。

4 ディスク作成が終わったら、本機の画面で ✕ → OK をタッチする。

5 ビルトインUSBケーブルを取り外す。

DVDライター DVDirect Expressを使って保存する

別売のDVDライター DVDirect Express（DVDダイレクトエクスプレス）を使うと、お好みのディスクを作成したり、作成したディスクを再生したりできます。DVDライターの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

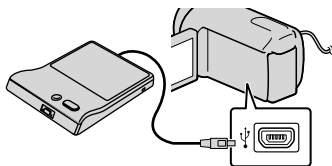
- 本機の電源は、ACアダプターを使ってコンセントから取ってください（14ページ）。
- このセクションでは、DVDirect Expressを「DVDライター」と表現します。

使えるディスク

- 12 cmDVD-R
- 12 cmDVD+R

  2層ディスクには対応していません。

1 ACアダプターを本機のDC IN端子とコンセントにつなぐ（14ページ）。

2 本機の電源を入れ、DVDライターのUSBケーブルを本機の ψ（USB）端子につなぐ。

- ビルトインUSBケーブルでは接続できません。

3 DVDライターに未使用のディスクを入れて、ディスクトレイを閉じる。

4 DVDライターの ⊙(ワンタッチディスク)ボタンを押す。

- [メディア切換]で設定されている記録メディアに記録した動画のうち、ディスクに保存されていない動画がディスクに書き込まれます。
- ハイビジョン画質(HD)と標準画質(STD)両方の保存していない動画がある場合は、それぞれ別のディスクに保存されます。
- 1枚のディスクに収まらないときは、DVDライターに未使用のディスクを入れて、操作を繰り返してください。

5 終了するには、本機の画面で OK → × → (トレイが開く) → ディスクを取り出す → OK をタッチする。

6 OK をタッチしてから、USBケーブルを取り外す。

ちょっと一言

- ワンタッチディスク操作で動画が一枚のディスクに収まらないときは、それぞれのディスクの最後の動画が自動的に分割され、ディスクの容量いっぱいまで保存されます。

こだわりコピー

次の場合はこの操作を行ってください。

- 好みの画像を選んでコピーする
- 同じディスクを複数作成する

1 DVDライターと接続して、[こだわりコピー]をタッチする。

2 動画の記録メディアを選び、[次へ]をタッチする。

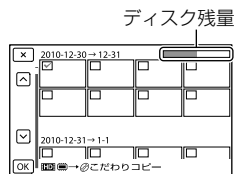
3 ディスクに書き込みたい動画をタッチする。

✔が表示されます。

ディスク残量

2010-12-30 → 12-31

2010-12-31 → 1-1

→こだわりコピー

- サムネイルを長押しすると、プレビューできます。 × で選択画面に戻ります。

4 本機で OK → OK をタッチする。

もう1枚同じディスクを作るときには、新しいディスクを入れてから、[同じディスクを作成する]をタッチしてください。

5 終了するには、本機で[機能を終了する] → × をタッチする。

6 **USBケーブルを本機から取り外す。**

ご注意

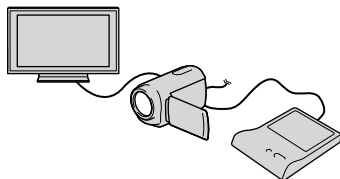
- ディスク作成中は、次の操作をしないでください。
  - 本機の電源を切る
  - USBケーブルやACアダプターを抜く
  - 本機やDVDライターに振動を与える
  - メモリーカードを本機から取り外す
- 本機の画像を削除する前に、作成したディスクを再生してコピーが正しく行われたかを確認してください。
- [失敗しました]または[ワンタッチディスクに失敗しました]と本機に表示されたときは、ディスクを入れ換えて、もう一度やり直してください。

ちょっと一言

- 1枚のディスクに容量いっぱいまでコピーするときの作成時間は、約20 ～ 60分です。シーン数や録画モードによっては、それ以上かかる場合もあります。

DVDライターでディスクを再生する

1 **ACアダプターを本機のDC IN端子とコンセントにつなぐ（14ページ）。**

2 **本機の電源を入れ、DVDライターのUSBケーブルを本機のψ（USB）端子につなぐ。**

- テレビの画面で動画を楽しむには、本機をテレビにつないでください（29ページ）。

3 **作成したディスクをDVDライターに入れる。**

本機の画面にディスク内の動画がインデックスとして表示されます。

4 **DVDライターの再生ボタンを押す。**

- 本機の画面で操作することもできます。

5 **再生が終わったら、本機の画面で［×］をタッチして、トレイが開いたらディスクを取り出す。**

6 **［OK］をタッチし、USBケーブルを取り外す。**

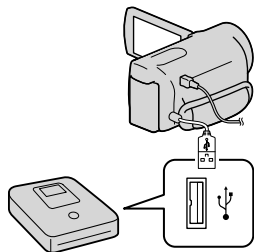
DVDirect Express以外のDVDライターでハイビジョン画質(HD)のディスクを作る

ハイビジョン画質(HD)対応のソニー製DVDライターなどのディスク作成機器と本機を、USBケーブルで接続します。つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

- 本機の電源は、ACアダプターを使ってコンセントから取ってください(14ページ)。
- ソニー製DVDirect(DVDライター)を使うときは、DVDライターのファームウェアが最新版であることをご確認ください。詳しくは下記のホームページをご覧ください。
  http://www.sony.jp/dvdirect/

1 ACアダプターを本機のDC IN端子とコンセントにつなぐ(14ページ)。

2 本機の電源を入れ、ビルトインUSBケーブルで本機とDVDライターなどをつなぐ。

[USB機能選択]画面が表示されます。

- [USB機能選択]画面が表示されないときは、MENU(メニュー)→[セットアップ]→[⇄(接続)]→[USB接続]をタッチして表示させてください。

3 本機の画面で、[USB接続]をタッチする。

4 接続先機器で録画操作を行う。

- 詳しくは、接続先機器の取扱説明書をご覧ください。

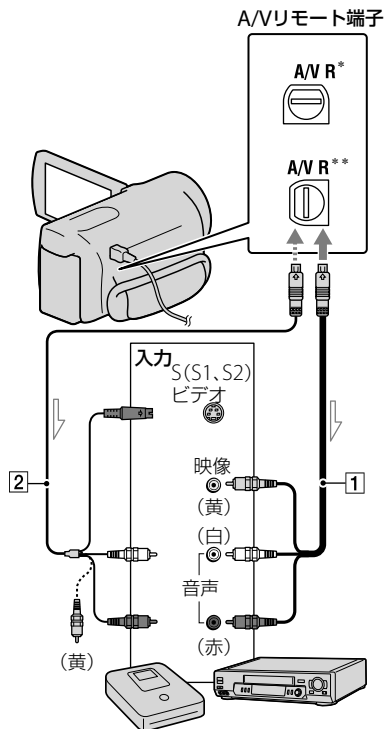
5 ディスク作成が終わったら、本機の画面で ✕ → OK をタッチする。

6 USBケーブルを取り外す。

レコーダーなどで標準画質(STD)のディスクを作る

本機をディスクレコーダーや、DVDirect Express以外のソニー製DVDライターなどにA/V接続ケーブルで接続すると、本機の画像を他のディスクやビデオカセットへコピーできます。次図の1か2どちらかの方法で接続してください。つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

- 本機の電源は、ACアダプターを使ってコンセントから取ってください(14ページ)。
- ハイビジョン画質(HD)で記録された画像は、標準画質(STD)でコピーされます。

信号の流れ

* HDR-PJ20/PJ40V

** HDR-XR160

1 A/V接続ケーブル(付属)

2 S映像ケーブル付きのA/V接続ケーブル(別売)

A/V接続ケーブルに比べ、画像をより忠実に再現できます。白と赤のプラグ(左右音声端子)とS映像プラグ(S映像端子)のみ接続し、黄色いプラグ(映像端子)は接続不要です。S映像プラグのみつないだ場合、音声は出力されません。

1 録画側のディスクレコーダーなどに記録用ディスクなどをセットする。

- 入力切り換えスイッチがある場合は、「入力」にしてください。

2 本機と録画側のディスクレコーダーなどを、A/V接続ケーブル1(付属)、またはS映像端子付きA/V接続ケーブル2(別売)でつなぐ。

- 接続先機器の入力端子につないでください。

3 本機で再生を始め、接続先機器で録画を始める。

- 詳しくは、接続先機器の取扱説明書をご覧ください。

4 ダビングが終わったら、接続先機器の録画を停止し、本機の再生を停止する。

ご注意

- アナログデータを経由してダビングするため、画質が劣化する場合があります。
- HDMIケーブルを使ってダビングできません。
- 日時やカメラデータ、緯度経度データ(HDR-PJ40V)をダビングしたいときは、MENU(メニュー)→[セットアップ]→[▶(再生設定)]→[日付/データ表示]→お好みの設定→ OK をタッチしてください。
- テレビなどの表示機器の画面サイズが4:3の場合は、MENU(メニュー)→[セットアップ]→[⇄(接続)]→[TVタイプ]→[4:3]→ OK をタッチしてください。
- 他機がモノラル(ひとつの音声入力・出力)の場合は、A/V接続ケーブルの黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグ(左音声)または赤いプラグ(右音声)を音声入力へつなぎます。

メニューを使いこなそう

メニューを使いこなすことで、「撮る」「見る」「保存する」をさらに楽しめます。
本機のメニューは大きく6つのカテゴリーに分類されており、その下にさまざまなメニュー項目があります。

撮影モード（撮影の種類に関する設定）→ 70ページ

カメラ・マイク（好みの撮影をするときの設定）→ 72ページ

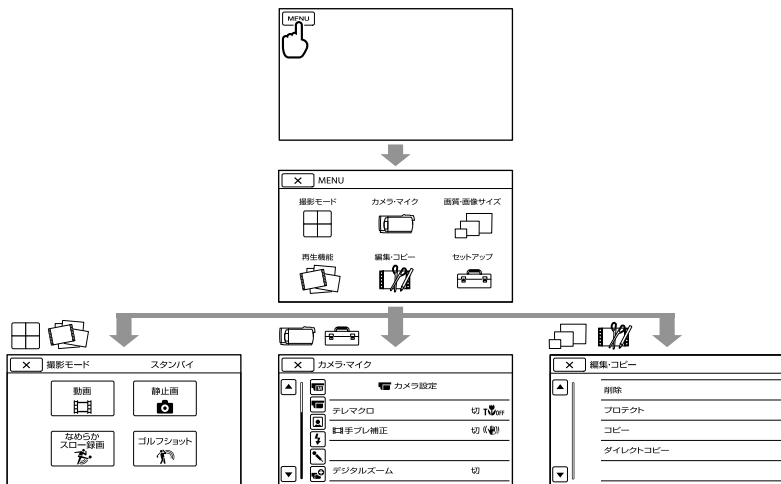
画質・画像サイズ（画質や画像サイズに関する設定）→ 81ページ

再生機能（再生に関する設定）→ 83ページ

編集・コピー（編集に関する設定）→ 83ページ

セットアップ（その他のいろいろな設定）→ 84ページ

メニューの操作方法

メニューを設定するときは、以下の手順で行ってください。

- ［カメラ・マイク］、［セットアップ］にはサブカテゴリーがあります。サブカテゴリーアイコンをタッチすると、サブカテゴリーごとに移動します。
- 灰色で表示されるメニュー項目や設定は使えません。

ご注意

- 本機の状態によっては、設定できないメニュー項目があります。
- メニューを終了する、または前のメニューに戻るには ✕ をタッチします。

メニュー一覧

*1 HDR-PJ40V
*2 HDR-PJ20/PJ40V
*3 HDR-XR160

撮影モード（撮影の種類に関する設定）

メニューの操作方法は68ページをご覧ください。
▶はお買い上げ時の設定です。

動画

動画を撮影するモードにします。

静止画

静止画を撮影するモードにします。

なめらかスロー録画

通常撮影では見ることができない高速な動作や現象を、なめらかなスローモーション映像として撮影します。

[なめらかスロー録画]画面でSTART/STOPボタンを押す。
約3秒間の録画が、約12秒間のスローモーション映像として記録されます。[録画中]が消えると記録が完了します。

記録を開始するタイミングを変更するには

[/]をタッチして設定を選ぶ。

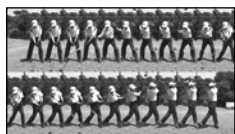
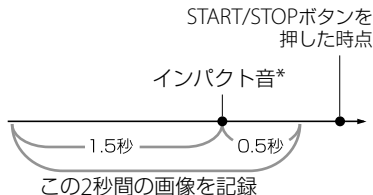
[/]（タイミング）

START/STOPボタンを押してから記録を開始するタイミングを選択します（お買い上げ時の設定は[ここから3秒間]）。

ご注意

- 音声は記録できません。
- 画質は通常撮影時より劣化します。
- [録画モード]は[標準 HQ]となります。
- 標準画質(STD)に設定しているときは、[なめらかスロー録画]の撮影はできません。

ゴルフショット

2秒間の高速な動作や現象を分割し、動画、静止画として記録します。再生すると一連の動作が表示されるので、ゴルフやテニスのフォームを確認するときなどに便利です。

[ゴルフショット]画面で、被写体を画面中央の白いガイドフレーム内におさめてスイング直後にSTART/STOPボタンを押す。本機がインパクト音を検出すると、インパクト音を基準に記録される区間が自動調整されます。

* START/STOPボタンを押した時点から、過去1秒間で一番音量が大きい瞬間をインパクト音として検出。

ご注意

- 本機がインパクト音を検出できなかったときは、START/STOPボタンを押す前の約0.5秒の時点をインパクトの瞬間とみなし、その前1.5秒と後0.5秒の合計2秒間の動作を記録します。
- 静止画の画像サイズは1,920 × 1,080になります。
- 音声は記録できません。
- 画質は通常撮影時より劣化します。
- [録画モード]は[標準 HQ]となります。
- 標準画質(STD)に設定しているときは、[ゴルフショット]の撮影はできません。

ちょっと一言

- セルフタイマーを設定するには、[/]をタッチします。[/]を[入]に設定した場合は、START/STOPボタンを押した後にタイマーのカウントダウンが始まります。カウントダウンが0になった時点をインパクトの瞬間とみなして、その前後の動作を記録します。
- 記録中に手ブレが発生した場合や、背景に動くものがある場合は、画像解析がうまくできずに、ノイズの多い映像になることがあります。三脚などを使って安定した状態で撮影することをおすすめします。
- 外部マイクを取り付けている場合も、インパクト音は内蔵マイクを使って検出されます。

カメラ・マイク（好みの撮影をするときの設定）

メニューの操作方法は68ページをご覧ください。
▶はお買い上げ時の設定です。

ホワイトバランス

撮影する場面に合わせて色合いを調節できます。

▶ オート
自動調節される。

屋外（☀）
次の撮影環境に合った色合いになる。
- 屋外
- 夜景やネオン、花火など
- 日の出、日没など
- 昼光色蛍光灯の下

屋内（☼）
次の撮影環境に合った色合いになる。
- 屋内
- パーティー会場やスタジオなど照明条件が変化する場所
- スタジオなどのビデオライトの下、ナトリウムランプや電球色蛍光灯の下

ワンプッシュ（）
光源に合わせてホワイトバランスを固定する。
① []をタッチする。
② 被写体を照らす照明条件と同じところに白い紙などを置き、画面いっぱいに映す。
③ [SET]をタッチする。

ご注意
- 白色や昼白色の蛍光灯下では、[オート]に設定するか[ワンプッシュ]の手順で色合いを調節してください。
- [ワンプッシュ]設定時は、白いものを映し続けてください。
- 動画撮影中は SET が灰色表示になり、設定できません。
- [ホワイトバランス]を設定すると[シーンセレクション]が[オート]になります。

ちょっと一言
- [オート]でバッテリーを交換したときや屋内外を移動したときは、10秒ほど白っぽい被写体を映すと、より良い色合いになります。
- [ワンプッシュ]設定中に、屋外と屋内を行き来したりしたなど照明条件が変わったときは、再び[ワンプッシュ]の手順を行ってください。

Spot測光フォーカス

被写体に合わせて、明るさとピントを同時に合わせます。[スポット測光]（73ページ）と[スポットフォーカス]（73ページ）が同時に使えます。

明るさとピントを合わせたい被写体にタッチする。
自動調節に戻すには、[オート]をタッチする。

ご注意
- [カメラ明るさ]と[フォーカス]は、自動的に[マニュアル]になります。

スポット測光（フレキシブルスポット測光）

被写体が最適な明るさで映るように画面全体の明るさを調節し、固定できます。
舞台上の人物の撮影など、被写体と背景のコントラストが強いときに使います。

明るさを合わせたい被写体にタッチする。
自動調節に戻すには、[オート]をタッチする。

ご注意

- [カメラ明るさ]は自動的に[マニュアル]になります。

スポットフォーカス

画面中央から外れた被写体を基準にして、ピントを合わせられます。

ピントを合わせたい被写体にタッチする。
自動ピント合わせに戻すには、[オート]をタッチする。

ご注意

- [フォーカス]が自動的に[マニュアル]になります。

カメラ明るさ

画像の明るさを手動で固定できます。背景に比べて被写体が明るすぎたり、暗すぎたりするときなどに調節します。

－/＋をタッチして明るさを調節する。
自動調節に戻すには、[オート]をタッチする。

フォーカス

手動でピントを合わせられます。ピントを合わせる被写体を意図的に変えるときにも使えます。

（近くにピント合わせ）/（遠くにピント合わせ）をタッチしてピントを調節する。
自動ピント合わせに戻すには、[オート]をタッチする。

ご注意

- マニュアルに設定すると、が表示されます。
- ピント合わせに必要な被写体との距離は、広角は約1cm以上、望遠は約80cm以上です。

ちょっと一言

- それ以上近くにピントを合わせられないときは が、それ以上遠くにピントを合わせられないときは が表示されます。
- ピントは、はじめにズームをT側（望遠）にしてピントを合わせてから、W側（広角）に戻していくと合わせやすくなります。接写時は、逆

にズームをW側(広角)いっぱいにしてピントを合わせます。
- 次のとき、フォーカス距離情報(ピントが合う距離。暗くてフォーカスが合わせにくいときに目安として使用します)を数秒間表示します(別売のコンバージョンレンズを付けているときは正しく表示されません)。
  - ピントを合わせる設定を自動から手動に切り換えたとき
  - フォーカスを手動調節したとき

Low Lux

薄暗いところで明るくカラーで撮影できます。

▶切
Low Lux機能を使わない。

入()
Low Lux機能を使う。

シーンセレクション

▶オート
シーンセレクションを使わずに、平均的な画質に調整する。

夜景*()
暗い雰囲気を損なわずに、遠くの夜景を撮影できる。

夜景＆人物()
静止画撮影時にフラッシュを使い、人物と背景を撮影する。(HDR-PJ40V)

日の出＆夕焼け*()
日の出や夕焼けなどを雰囲気たっぷりに表現する。

打ち上げ花火*()
打ち上げ花火をきれいに撮影する。

風景*()
遠景まではっきり撮影できる。ガラスや金網越しに撮るときも、向こうの被写体にピントが合うようになる。

ポートレート()
背景をぼかして、前にいる人物や花などをソフトに引き立てる。

スポットライト()**
スポットライトを浴びている人物の顔などが白く飛んでしまうのを防ぐ。

ビーチ()**
海や湖畔などで、水の青さを鮮やかに撮影できる。

スノー()**
ゲレンデなどの白い風景で、画面が暗くなるのを防ぎ、明るくする。

* 遠景のみにピントが合うように設定されます。
** 近くのものにピントが合わないように設定されます。

ご注意
- [夜景＆人物]に設定していても、動画撮影モードでは[オート]になります(HDR-PJ40V)。
- [シーンセレクション]を設定すると、[ホワイトバランス]の設定が解除されます。

フェーダー

場面間に、効果を入れながら、つなぎ撮りできます。
スタンバイ中(フェードイン)、または撮影中(フェードアウト)に以下の操作を行います。

▶ **切**
効果を使わない。

ホワイトフェーダー(W)
フェードイン/アウトで効果を使う(白)。

ブラックフェーダー(B)
フェードイン/アウトで効果を使う(黒)。

操作開始前に解除するには、[切]をタッチする。

ちょっと一言

- 一度START/STOPボタンを押すと設定は解除されます。
- [ブラックフェーダー]で撮影した画像は、インデックス画面で見えにくいことがあります。

セルフタイマー

PHOTOボタンを押すとカウントダウンが始まり、約10秒後に静止画を撮影します。

▶ **切**
セルフタイマーを解除する。

入(⏲)
セルフタイマーで撮影する。撮影を中止するには[リセット]をタッチする。

ちょっと一言

- リモコンのPHOTOボタンでも操作できます(119ページ)(HDR-PJ20/PJ40V)。

テレマクロ

背景をぼかして、被写体をより際立たせることができます。花や昆虫など小さいものを撮るときに便利です。

▶ **切**
近接撮影を解除する。(または、ズームを広角(W側)にすると解除される。)

入(T🌷)
ズーム(32ページ)が自動で望遠(T側)になり、下記の距離までの近接撮影ができる。

HDR-PJ20/XR160：約44 cm
HDR-PJ40V：約25 cm

ご注意

- 被写体が遠いときにはピントが合いにくく、ピントが合うまでに時間がかかる場合があります。

• ピントが合いにくいときは、手動でピントを合わせてください（[フォーカス]、73ページ）。

手ブレ補正

手ブレを補正して撮影できます。
三脚（別売）を利用するときは、[切]（）にすると自然な画像になります。

▶ **アクティブ**
強い手ブレ補正効果を得る。

スタンダード
比較的安定した状態で、より広角で撮影する。

切（）
手ブレ補正機能を使わない。

ご注意
• [手ブレ補正]の設定を変更すると、画角が変わります。
• [手ブレ補正]が[アクティブ]以外のときは、下記の倍率までの光学ズームができます。
HDR-PJ20/XR160：30倍
HDR-PJ40V：12倍

手ブレ補正

手ブレを補正して撮影できます。
三脚（別売）を利用するときは、[切]（）にすると自然な画像になります。

▶ **入**
手ブレ補正機能を使う。

切（）
手ブレ補正機能を使わない。

デジタルズーム

デジタルズームの最大倍率を設定します。デジタル処理のため画質は劣化します。

[350×]または[160×]を選ぶと表示されます。

▶ **切**
HDR-PJ20/XR160：42倍ズーム
HDR-PJ40V：17倍ズーム

350× (HDR-PJ20/XR160)
最大350倍までのデジタルズーム

160× (HDR-PJ40V)
最大160倍までのデジタルズーム

ご注意
• [手ブレ補正]が[アクティブ]以外のときは、下記の倍率までの光学ズームができます。
HDR-PJ20/XR160：30倍
HDR-PJ40V：12倍

コンバージョンレンズ

本機に対応しているコンバージョンレンズ（別売）を使用する場合に設定します。コンバージョンレンズに合わせて、手ブレ補正とフォーカスが最適化されます。

▶ **切**
コンバージョンレンズを使わない。

ワイコンレンズ（）
ワイドコンバージョンレンズを使う。

テレコンレンズ（）
テレコンバージョンレンズを使う。

ご注意

- [コンバージョンレンズ]を[切]以外に設定しているときは、内蔵フラッシュ、内蔵ビデオライトは発光しません。また、[フラッシュ](78ページ)を設定できません(HDR-PJ40V)。

自動逆光補正

自動で逆光補正をします。

▶ **入**
自動で逆光補正を行う。

切
逆光補正を行わない。

顔検出

人物の顔検出と優先する被写体の設定を選びます。選んだ被写体の顔部分に合わせてフォーカス/色/露出を自動的に調節します。また、ハイビジョン画質(HD)のときはさらに、顔部分が細密な画像になるように調整します。

▶ **オート**
大人、子どもの区別なく、顔を検出する。

こども優先()
子どもの顔を優先的に検出する。

おとな優先()
大人の顔を優先的に検出する。

切()
顔検出をしない。

ご注意

- 撮影環境や、被写体の状態、設定によっては、顔部分を検出できないことがあります。
- 撮影環境によっては正しい効果が得られない場合があります。この場合は、[顔検出]を[切]にしてください。

ちょっと一言

- 顔検出をしやすくするためには以下のような状況で撮影してください。
  - 適度に明るい場所で撮影する
  - 帽子やマスク、サングラスなどで顔が隠れないようにする
  - 顔をカメラ正面に向ける
- 液晶画面に表示された顔枠にタッチして優先する被写体を選んだ場合は、二重枠が表示されている被写体が優先になります(34ページ)。

スマイルシャッター

笑顔を検出すると自動で静止画を撮影します。

▶ **動画録画中のみ**
動画録画中のみ笑顔を検出して、自動的に静止画を撮影する。

常時
静止画撮影可能状態時に笑顔を検出して自動的に静止画を撮影する。

切()
笑顔を検出しないため、静止画を自動撮影しない。

ご注意

- 撮影環境や、被写体の状態、設定によっては、笑顔を検出できないことがあります。

スマイル検出感度

自動撮影する笑顔の検出感度を設定します。

ほほ笑み
ほほ笑み程度で検出する。

▶ **普通の笑顔**
普通の笑顔で検出する。

大笑い
大笑いで検出する。

フラッシュ(HDR-PJ40V)

本機の内蔵フラッシュ、または本機に対応した外付けフラッシュ(別売)を使って静止画を撮影するときのフラッシュの設定を選べます。

▶ **オート**

撮影状況により光量が足りないと判断した場合、自動的に発光する。

強制発光(ϟ)

周囲の明るさに関係なく、常に発光する。

発光禁止(ϟ)

常に発光しない。

ご注意

- 内蔵フラッシュの推奨撮影距離は約0.3m ～ 1.5mです。
- フラッシュ表面の汚れは取り除いてください。光による熱で汚れが変色、貼り付くなどして、フラッシュが充分な光量を発光できなくなることがあります。
- ϟ/CHG(フラッシュ /充電)ランプ(12ページ)はフラッシュ充電中に点滅し、充電が完了すると点灯に変わります。
- 逆光時や明るい場所では、強制発光を行ってもフラッシュ効果が得られにくいことがあります。
- [コンバージョンレンズ](76ページ)を[切]以外に設定しているときは、内蔵フラッシュは発光しません。また、[フラッシュ]を設定できません。
- 動画撮影モードのときは、フラッシュは発光しません。
- コンバージョンレンズ(別売)を付けてフラッシュ撮影をすると、影が映ることがあります。

フラッシュレベル(HDR-PJ40V)

本機の内蔵フラッシュ、または本機に対応した外付けフラッシュ(別売)を使って静止画を撮影するときに設定します。

明るい(ϟ+)

発光量が増える。

▶ **標準(ϟ)**

暗い(ϟ–)

発光量が減る。

赤目軽減(HDR-PJ40V)

本機の内蔵フラッシュ、または本機に対応した外付けフラッシュ(別売)を使って静止画を撮影するときに設定します。

フラッシュ発光するときに予備発光し、目が赤く光るのを抑制します。

▶ **切**

赤目軽減しない。

入(◎)

赤目軽減する。

ご注意

- 赤目軽減で撮影しても、効果が表れにくいことがあります。
- [スマイルシャッター]で自動撮影するときは予備発光しません。

内蔵ズームマイク

ズームと連動して、臨場感のある音声を記録できます。

▶ **切**
ズームと音声を連動しない。

入( )
ズームと音声を連動する。

風音低減

内蔵マイクで入力音声の低域音をカットして、風音低減をします。

▶ **切**
風音低減を行わない。

入( )
風音低減を行う。

ご注意

- [入]にすると、[内蔵ズームマイク]の設定は[切]になります。

オーディオモード

録画時の音声フォーマットを変更できます。

▶ **5.1chサラウンド(♪5.1ch)**
5.1chサラウンドで記録する。

2chステレオ(♪2ch)
2chステレオで記録する。

マイク基準レベル

録音時のマイクレベルを選べます。

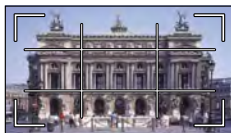
▶ **標準**
周囲の音を一定のレベル内におさめて録音する。

低( )
周囲の音を忠実に録音する。演奏会などで、臨場感のある音を録音したいときは[低]を選ぶ。(日常の会話の録音などには適していません。)

ガイドフレーム

フレームを表示して、被写体が水平、垂直になっているかを確認できます。
フレームは記録されません。

▶ **切**
ガイドフレームを表示しない。

入
ガイドフレームを表示する。

ちょっと一言

- ガイドフレームの交差点に被写体を置くと、バランスの良い構図になります。
- ガイドフレームの外側の枠は、フルピクセル表示機能のないテレビの表示エリアを表しています。

画面表示設定

液晶画面に画面表示が表示される時間を設定します。

▶ オート

画面表示を約3秒間だけ表示する。液晶画面横に録画/ズームボタンを表示する。

入

画面表示を常時表示する。液晶画面横に録画/ズームボタンを表示しない。

ちょっと一言

- 次の操作をすると、画面表示が再表示されます。
  - – 本機の電源を入れたとき
  - – 液晶画面をタッチしたとき（液晶画面の横の録画/ズームボタンを除く）
  - – 動画撮影/静止画撮影/再生モードを切り換えたとき

ビデオライト明るさ（HDR-PJ40V）

ビデオライトの明るさを設定します。

▶ 標準

通常の設定（標準の明るさ）。

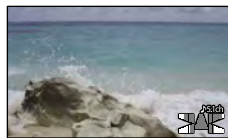
明るい

ビデオライトが暗いと感じたときに選ぶ。

音声レベル表示

音声レベルの表示を行うかどうかの設定をします。

▶ 入

音声レベル表示を行う。

切

音声レベル表示を行わない。

ちょっと一言

- ［オーディオモード］で2chを選んでいるときは、左右の上2つだけ反応します。

画質・画像サイズ
（画質や画像サイズに関する設定）

メニューの操作方法は68ページをご覧ください。
▶はお買い上げ時の設定です。

録画モード

33ページをご覧ください。

フレームレート

ハイビジョン画質（HD）では、フレームレートを選べます。通常の撮影は[60i]をおすすめします。フレームレートを選んだ後に、[録画モード]の設定を行います（33ページ）。

▶ 60i
通常はこちらをおすすめします。

60p
60iの2倍の情報量でよりきれいに記録します。テレビで見るときは60pに対応したテレビが必要です。対応していないテレビの場合、60iとして出力されます。

24p*
映画のようなパラパラ感を表現した記録ができます。

* HDR-PJ40V

ご注意

- [録画モード]の設定によって、記録した動画を保存できる記録メディアが異なります。詳しくは、33ページをご覧ください。

ちょっと一言

- フレームレートとは、単位時間あたりの画面の更新回数です。

HD / STD 設定

33ページをご覧ください。

ワイド切換

標準画質（STD）で記録するときに、つなぐテレビの画像の横縦比に合った画像サイズで撮影できます。テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

▶ 16:9 ワイド
ワイド（16:9）テレビ画面いっぱいに映るように撮影する。

4:3（4:3）
4:3テレビ画面いっぱいに映るように撮影する。

ご注意

- 再生時に接続するテレビに合わせて[TVタイプ]を正しく設定してください（86ページ）。

x.v.Color

より広い色域で記録できます。鮮やかな花の色や、南国の海の美しい青緑色などを、より忠実に再現することが可能になります。

▶ 切
通常の色域で撮影する。

入（COLOR）
x.v.Colorで撮影する。

ご注意

- x.v.Colorに対応したテレビで再生するときは、あらかじめ[入]にして撮影してください。
- [入]にして撮影した画像をx.v.Colorに非対応のテレビで再生すると、色が正しく再現されない場合があります。

• 次のとき[x.v.Color]は設定できません。
– 標準画質(STD)に設定されているとき
– 動画を撮影中

画像サイズ

撮影する静止画のサイズを選びます。
HDR-PJ20/XR160

▶ 4:3 3.3M(3.3M)
鮮明な画像を撮影する(2,112 × 1,584)。

16:9 2.5M(2.5M)
鮮明な画像をワイド(16:9)で撮影する(2,112 × 1,188)。

4:3 1.9M(1.9M)
比較的きれいな画像をたくさん撮影する(1,600 × 1,200)。

4:3 VGA(0.3M)(VGA)
たくさんの画像を撮影する(640 × 480)。

HDR-PJ40V

▶ 4:3 7.1M(7.1M)
鮮明な画像を撮影する(3,072 × 2,304)。

16:9 5.3M(5.3M)
鮮明な画像をワイド(16:9)で撮影する(3,072 × 1,728)。

4:3 1.9M(1.9M)
比較的きれいな画像をたくさん撮影する(1,600 × 1,200)。

4:3 VGA(0.3M)(VGA)
たくさんの画像を撮影する(640 × 480)。

ご注意

• 設定した画像サイズは、(静止画)ランプ点灯時に有効です。
• ワイド(16:9)で撮影した静止画をお店でプリントするときは、注文時に「ハイビジョンサイズ」とご指定ください。ご指定がない場合、画像の左右が切れてプリントされることがあります。

再生機能
（再生に関する設定）

メニューの操作方法は68ページをご覧ください。

イベントビュー

25ページをご覧ください。

マップビュー（HDR-PJ40V）

43ページをご覧ください。

ハイライト動画

39ページをご覧ください。

シナリオ再生

38ページをご覧ください。

編集・コピー
（編集に関する設定）

メニューの操作方法は68ページをご覧ください。

削除

45ページをご覧ください。

プロテクト

46ページをご覧ください。

コピー

49ページをご覧ください。

ダイレクトコピー

60ページをご覧ください。

セットアップ（その他のいろいろな設定）

メニューの操作方法は68ページをご覧ください。

メディア切換

18ページをご覧ください。

メディア情報

動画の記録メディアの録画モードごとの録画可能時間や、記録メディアの使用領域と空き領域の目安を確認できます。

終了するには

✕ をタッチする。

ご注意

- 管理ファイル用領域があるため、［フォーマット］（84ページ）を行っても、使用領域の表示は0%になりません。

ちょっと一言

- ［メディア切換］（18ページ）で設定している記録メディアの情報を表示できます。必要に応じて記録メディアを切り換えてください。

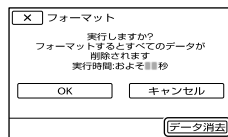
フォーマット

フォーマット（初期化）とはメディア内の動画・静止画をすべて削除して、記録メディアの容量を元に戻すことです。
フォーマットする記録メディアを選択し、OK → OK をタッチする。

ご注意

- 本機の電源は、ACアダプターを使ってコンセントから取ってください（14ページ）。
- 大切な画像は保存してから［フォーマット］してください。
- プロテクトされた動画・静止画も削除されます。
- ［実行中］が表示されているときは、液晶画面の開閉やボタンを操作したり、メモリーカードを取り出したり、ACアダプターを外したりしないでください（メモリーカードのフォーマット中はアクセスランプが点灯・点滅します）。

内蔵記録メディア上のデータを復元しにくくするには

本機の内蔵記録メディアに無意味なデータを書き込んで、データの復元を困難にします。
本機を廃棄したり譲渡したりする前に、情報の漏洩を防ぐために［データ消去］を行うことをおすすめします。
［フォーマット］画面で内蔵記録メディアを選択し、［データ消去］をタッチしてください。

ご注意

- ACアダプターを使って電源をコンセントからとってください。ACアダプターを使って電源をコンセントから取っていないと、［データ消去］を行うことはできません。
- 大切な画像データはパソコンまたは他機に保存してから、［データ消去］を行ってください。
- ACアダプター以外のケーブル類は外してください。実行中はACアダプターを外さないでください。
- データの消去中は、本機に振動や衝撃を与えないでください。
- データの消去にかかる時間は、液晶画面上でご確認ください。
- ［実行中］と表示されている間に中止した場合は、次に本機を使う前に、［フォーマット］または［データ消去］を実行して完了させてください。

管理ファイル修復

97、101ページをご覧ください。

ファイル番号

静止画のファイル番号の付けかたを選びます。

▶ **連番**

静止画のファイル番号を連続して付ける。撮影するたびに画像のファイル番号が大きくなります。
メモリーカードを取り換えた場合も、ファイル番号は連続して付きます。

リセット

記録メディアに存在している最大ファイル番号の次の番号を付ける。
メモリーカードを取り換えた場合は、メモリーカードごとにファイル番号が付きます。

日付/データ表示

撮影時に自動的に記録された情報（日付時刻データやカメラデータ、緯度経度データ*）を再生時に確認できます。

▶ **切**

日付時刻データやカメラデータ、緯度経度データ*を表示しない。

日付時刻データ

記録した画像の日付・時刻データを表示する。

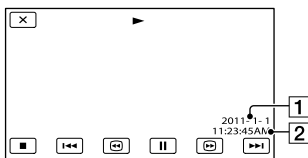
カメラデータ

記録した画像のカメラデータを表示する。

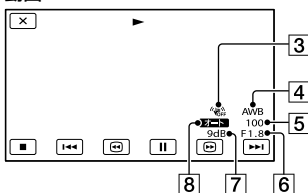
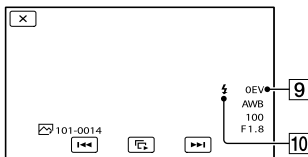
緯度経度データ*

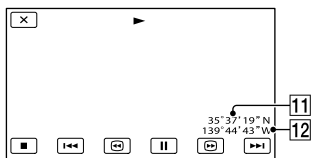
記録した画像の緯度経度データを表示する。

* HDR-PJ40V

日付時刻データ

1 日付
2 時刻

カメラデータ

動画

静止画

3 手ブレ補正切
4 ホワイトバランス
5 シャッタースピード
6 絞り値
7 ゲイン
8 明るさ調節
9 露出
10 フラッシュ

緯度経度データ（HDR-PJ40V）

11 緯度
12 経度

ちょっと一言

- 本機をテレビにつなぐとテレビ画面にも表示されます。
- リモコン（HDR-PJ20/PJ40V）のDATA CODEボタンを押すたびに、[日付時刻データ]→[カメラデータ]→[緯度経度データ]（HDR-PJ40V）→[切]（表示なし）と切り替わります。
- 記録メディアの状態によっては、[-- -- --]と表示されます。

音量

［音量－］/［音量＋］をタッチして音量を調節できます。

BGMダウンロード

38ページをご覧ください。
パソコンと接続して、お手持ちの音楽CDなどからお好みの曲（BGMファイル）をダウンロードします。

BGMデータ消去

38ページをご覧ください。
BGMファイルをすべて消去します。

TVタイプ

つなぐテレビの横縦比に合わせて出力信号を変換します。

▶ **16:9**

ワイドテレビで再生するときに選ぶ。次のように再生される。

ワイド（16:9）で撮影した画像　4:3で撮影した画像

4:3

4:3テレビで再生するときに選ぶ。次のように再生される。

ワイド（16:9）で撮影した画像　4:3で撮影した画像

ご注意

- ハイビジョン画質（HD）で記録するときの横縦比は16:9になります。

コンポーネント出力

D端子のあるテレビとつなぐときに選びます。

D1

D1/D2端子があるテレビとつなぐときに選ぶ。

▶ **D3**

D3/D4端子があるテレビとつなぐときに選ぶ。

D5

D5端子があるテレビとつなぐときに選ぶ。

HDMI解像度

HDMI端子からテレビに出力する信号の種類を選びます。

▶ **オート**
通常の設定(テレビの表示可能な信号をオートで出力)。

1080p/480p
ハイビジョン画質(HD)の動画は1080pで出力します。標準画質(STD)の動画は480pで出力します。

1080i/480i
ハイビジョン画質(HD)の動画は1080iで出力します。標準画質(STD)の動画は480iで出力します。

720p/480p
ハイビジョン画質(HD)の動画は720pで出力します。標準画質(STD)の動画は480pで出力します。

480p
480pで出力する。

480i
480iで出力する。

ご注意

- [フレームレート]を[60p]に設定中で、HDMI解像度を[720p/480p]または[480p]に設定した場合、撮影中にHDMI出力ができません。

HDMI機器制御

HDMIケーブル(別売)でブラビアリンク対応のテレビとつないで再生するとき、テレビのリモコンで本機の再生操作ができます(31ページ)。

▶ **入**
テレビのリモコンで操作する。

切
テレビのリモコンで操作しない。

USB接続

ビルトインUSBケーブルで本機と接続機器をつないでも[USB機能選択]画面が表示されない場合に使います。

USB接続設定

本機とパソコンまたはUSB機器と接続するときのモードを設定します。

▶ **オート**
相手機器に応じた接続方法を自動的に選ぶ。

Mass Storage
対応している相手機器が多い接続方式。

MTP
一部のパソコンで対応している接続方式。

ご注意

- [MTP]で接続すると、[HD/STD設定]で選択した動画のみ、相手機器で表示されます。
- [MTP]で接続すると、画像ファイルが日付で分類されて表示される代わりに、エリア情報など一部の情報が表示されません。画像の取り込みには付属の「PMB」を使用してください。
- Windows 7接続時にデバイスステージ*が表示されない場合、[USB接続設定]を[オート]にしてください。

* 接続されたカメラなどを管理できるメニュー画面(Windows 7の機能)です。

USB LUN設定

USB接続の機能を制限して互換性を高めます。

▶ **マルチ**
通常は[マルチ]のまま使う。

シングル
どうしても接続できない場合のみ、こちらにする。

ご注意

- [PMB Portable]でネットワークサービスに画像をアップロードする場合は、必ず[USB LUN設定]を[マルチ]にしてください。

ワンタッチディスク

52ページをご覧ください。

操作音

▶ **入**
撮影スタート/ストップ時、タッチパネルでの操作時などにメロディが鳴る。

切
メロディを鳴らさない。

パネル明るさ

パネルの明るさを調節できます。

▶ **標準**
通常の設定(標準の明るさ)。

明るい
画面が暗いと感じたときに選ぶ。

ちょっと一言

- 録画される画像に影響ありません。

現在地表示(HDR-PJ40V)

44ページをご覧ください。

GPS(HDR-PJ40V)

GPS信号を受信するか、受信しないかを切り換えます(42ページ)。

▶ **入**
GPS信号を受信する。

切
GPS信号を受信しない。

ご注意

- [切]にすると、前回測位した位置情報が無効になります。[入]にしても、測位が成功するまで位置情報は記録されません。

録画ランプ(HDR-PJ40V)

撮影中に本体前面の録画ランプが点灯しないように設定できます。

▶ **入**
点灯する。

切
点灯しない。

リモコン(HDR-PJ20/PJ40V)

▶ **入**
付属のワイヤレスリモコン(119ページ)を使う。

切
他機のリモコンによる誤動作を防ぐため、リモコンは使わない。

ちょっと一言

- [切]に設定すると、他機のリモコンによる誤動作を防げます。

自動電源オフ

何も操作しない状態が約5分以上続くと、自動的に電源が切れるように設定できます。

▶ **入**
自動的に電源が切れる。

切
自動的に電源は切れない。

ご注意

- コンセントにつないでいるときは、自動的に電源は切れません。

パネルで電源オン

液晶画面の開閉で、電源のオン/オフをするかを設定します。

▶ **入**
液晶画面の開閉で電源のオン/オフをする。

切
液晶画面の開閉で電源のオン/オフをしない。

キャリブレーション

111ページをご覧ください。

落下検出(HDR-XR160)

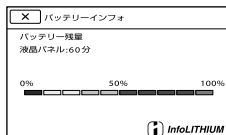
▶ **入**
落下を検出する。検出時は、内蔵ハードディスク保護のために、正常な記録/再生ができなくなることがある。落下検出時は、が表示される。

切(OFF)
落下を検出しない。

ご注意

- [通常は[入]にして本機を使用してください。[切]にすると、落下時に本機の内蔵ハードディスクを損傷するおそれがあります。
- 本機が無重力状態になると落下検出が作動します。ジェットコースターやスカイダイビングなど、本機が無重力状態で撮影するときは、[切]に設定すると落下検出が作動しません。

バッテリーインフォ

装着しているバッテリー残量の目安を確認できます。

終了するには画面左上の ✕ ボタンをタッチしてください。

デモモード

コンセントにつないでいるときに、動画撮影画面またはイベントビュー画面で約10分間放置すると、本機の機能のデモンストレーションを見ることができます。

▶ **入**
デモンストレーションを出す。

切
デモンストレーションを出さない。

ご注意

- お買い上げ時には、イベントインデックスにデモンストレーション用の動画が用意されています。削除した場合、元に戻すことはできません。

- 撮影した動画が次のすべての条件を満たした場合、自動的にデモンストレーション用の動画として登録されます。
  - プロテクトされていること
  - 一番最初に記録された画像
  - 内蔵記録メディアに保存されていること
  - ハイビジョン画質（HD）であること

ちょっと一言

- [入]に設定し、OK をタッチするとデモンストレーションが開始されます。
- 次のいずれかを行うと、デモンストレーションが中断されます。10分以上何もしないと再開します。
  - START/STOPボタン、またはPHOTOボタンを押す
  - デモンストレーション中に画面をタッチする
  - (画像再生)ボタンを押す
  - MODEボタンを押す
  - プロジェクター投影中のみ：ズームレバーを操作する

日時設定

■ 日時

16ページをご覧ください。

■ サマータイム

サマータイムとは、夏の一定期間、日照時間を有効に使うために時計を標準時間より進める制度で、欧米諸国では広く採用されています。本機で[サマータイム]を[入]にすると、時計が1時間進みます。

▶ 切
サマータイムに設定しない。

入
サマータイムに設定する。

■ 表示形式

年-月-日の表示順を4種類の表示順の中から選べます。

エリア設定

時計を止めることなく時差補正ができます。本機を使用する場所に適した時刻に合わすことができます。「世界時刻表」（105ページ）もご覧ください。

HDR-PJ20/XR160
[自宅]、[訪問先]を選んでエリアを設定できます。

▶ 自宅
お住まいの地域で使用する。

訪問先（）
訪問先の時刻に合わせて使用する。
訪問先のエリアを設定する。

ちょっと一言

- よく訪れる訪問先がある場合、[訪問先]に設定しておくと便利です。

HDR-PJ40V
エリアを設定できます。

ちょっと一言

- [自動エリア補正]が[入]の場合、GPSにより自動的に現地時間に設定されます。

自動時刻補正（HDR-PJ40V）

GPSから時刻を取得して、正確な時刻を維持します。

▶ 入
自動で時刻を補正する。

切
自動で時刻を補正しない。

ご注意

- 日時合わせ（16ページ）をしておいてください。
- ［自動時刻補正］は、数秒の誤差が生じることがあります。
- ［自動時刻補正］は、本機の起動中にGPS信号を受信して測位に成功したときに時刻を補正します。一度補正したら次の起動まで行いません。
- 地域によっては、［自動時刻補正］が正確に機能しない場合があります。その場合は、設定を［切］にしてください。

自動エリア補正（HDR-PJ40V）

GPSから現在地情報を取得して、時差を検出した場合、自動で補正します。

▶ **入**

自動で時差を補正する。

切

自動で時差を補正しない。

ご注意

- 日時合わせ（16ページ）をしておいてください。
- ［自動エリア補正］は、時差を検出した場合に自動で時差補正を行います。
- 地域によっては、［自動エリア補正］が正確に機能しない場合があります。その場合は、設定を［切］にしてください。

故障かな?と思ったら

困ったときは、下記の流れに従って対応してください。

① 92 ~ 103ページの項目をチェックし、本機を点検する。

▼

② 電源を取り外し、約1分後に再び取り付け、本機の電源を入れる。

▼

③ RESETボタン(118ページ)を先の細いもので押してから電源を入れる。
この操作を行うと、日時やエリアなどの設定が解除されます。

▼

④ "ハンディカム"ホームページなどで確認する。
http://www.sony.co.jp/cam/support/

▼

⑤ ソニーの相談窓口に電話で問い合わせる(123ページ)。

- 修理内容によっては内蔵記録メディアの初期化または交換が必要になることがあります。その場合、内蔵記録メディア内のデータはすべて消去されますので、修理をお受けになる前に内蔵記録メディア内のデータを保存(バックアップ)してください。修理によってデータが消去された場合の補償については、ご容赦ください。
- 修理において、不具合症状の発生・改善の確認のために、必要最小限の範囲で内蔵記録メディア内のデータを確認させていただく場合があります。ただし、それらのデータをソニー側で複製・保存することはありません。

全体操作・リモコン(HDR-PJ20/PJ40V)

電源が入らない。

- 充電されたバッテリーを取り付ける(12ページ)。
- ACアダプターをコンセントに差し込む(12ページ)。

電源が入っているのに操作できない。

- 電源を入れてから撮影が可能になるまで数秒かかりますが、故障ではありません。
- 電源(バッテリーまたはACアダプターの電源コード)を取り外し、約1分後に電源を取り付け直す。それでも操作できないときは、RESET(リセット)ボタン(118ページ)を先のとがったもので押す(すべての設定が解除されます)。
- 本機の温度が著しく高くなっている。電源を切り、涼しい場所でしばらく放置する。
- 本機の温度が著しく低くなっている。電源を入れた状態でしばらく放置する。それでも操作できないときは一度電源を切り、暖かい場所に移動してしばらくしてから電源を入れる。

メニュー項目の設定が変わっている。

- おまかせオート中は、画質に関わる設定が自動的に設定されます。
- 次のメニュー項目は、動画撮影/静止画撮影/再生モードを切り換えると、お買い上げ時の設定に戻ります。
  - [🎞 フェーダー]
  - [📷 セルフタイマー]
  - [テレマクロ]

本機が温かくなる。

- 本機を使用中に本機が温かくなることがありますが、故障ではありません。

本機を振ると音がする。

- 電源を入れて撮影モードで振ったときに音がしなければ内部のレンズが動く音です。故障ではありません。

おまかせオートが解除される。

- 次の設定を変更するとおまかせオートは解除されます。
  - [なめらかスロー録画]
  - [ゴルフショット]
  - [ホワイトバランス]
  - [Spot測光フォーカス]
  - [スポット測光]
  - [スポットフォーカス]
  - [カメラ明るさ]
  - [フォーカス]
  - [Low Lux]
  - [シーンセレクション]
  - [テレマクロ]
  - [🎞 手ブレ補正]
  - [📷 手ブレ補正]
  - [自動逆光補正]
  - [顔検出]

付属のワイヤレスリモコンが操作できない(HDR-PJ20/PJ40V)。

- [リモコン]を[入]にする(88ページ)。
- 電池の+極と−極を正しく入れる(120ページ)。
- リモコンと本機リモコン受光部の間にある障害物を取り除く。
- 本機のリモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっていると、リモコン操作できないことがあります。

リモコン操作中に他のDVD機器が誤動作する(HDR-PJ20/PJ40V)。

- DVD機器のリモコンスイッチをDVD2以外のモードに切り換えるか、黒い紙でリモコン受光部をふさぐ。

バッテリー・電源

電源が途中で切れる。

- ACアダプターを使用する。
- お買い上げ時の設定では、操作しない状態が約5分以上続くと、自動的に電源が切れる(自動電源オフ)。[自動電源オフ]の設定を変更する(89ページ)か、もう一度電源を入れる。
- バッテリーを充電する(12ページ)。

バッテリーの充電中、CHG(充電)ランプ、⚡/CHG(フラッシュ /充電)ランプが点灯しない。

- 液晶画面を閉じる(12ページ)。
- バッテリーを正しく取り付け直す(12ページ)。
- コンセントにプラグを正しく差し込む。
- すでに充電が完了している(12ページ)。

バッテリーの充電中、CHG(充電)ランプ、⚡/CHG(フラッシュ /充電)ランプが点滅する。

- バッテリーの温度が高すぎる、または低すぎると、充電できないことがあります(109ページ)。
- バッテリーを正しく取り付け直す(12ページ)。それでも点滅するときは、故障のおそれがあるため、コンセントからプラグを抜き、ソニーの相談窓口にお問い合わせください(123ページ)。

バッテリー残量が正しく表示されない。

- 周囲の温度が極端に高い・低い、または充電が不充分なためで、故障ではありません。
- 満充電し直す。それでも正しく表示されないときはバッテリーの寿命です。新しいバッテリーに交換してください(110ページ)。
- 使用状況や環境によっては正しく表示されません。

バッテリーの消耗が早い。

- 周囲の温度が極端に高い・低い、または充電が不充分なためで、故障ではありません。
- 満充電し直す。それでも消耗が早いときはバッテリーの寿命です。新しいバッテリーに交換してください(110ページ)。

液晶画面

メニュー項目が灰色で表示され、選択できない。

- その項目は選択できない状態です。
- 機能によっては、一緒に使えないものがあります。

タッチパネルのボタンが表示されない。

- 液晶画面を軽くタッチする。
- リモコン(HDR-PJ20/PJ40V)のDISPLAYボタンを押す(119ページ)。
- プロジェクターを投影中の場合は、PROJECTORボタンを押して投影を終了する(HDR-PJ20/PJ40V)。

タッチパネルのボタンが操作できない、または正しく操作できない。

- タッチパネルを調節(キャリブレーション)する(111ページ)。

タッチパネルのボタンがすぐに消えてしまう。

- [画面表示設定]を[入]にする(80ページ)。

パネルに格子状の点が見える。

- 故障ではありません。これらの点は記録されません。

メモリーカード

メモリーカードを入れても操作を受け付けない。

- パソコンでフォーマット(初期化)したメモリーカードを入れている場合は、本機でフォーマットする(84ページ)。

メモリーカードの画像が削除できない。

- 編集画面では、削除する画像を1度に100枚までしか選択できません。
- プロテクトをかけた画像は削除できません。

データファイル名が正しくない、または点滅している。

- ファイルが壊れている。
- 本機で対応しているファイル形式を使う（108ページ）。

撮影

「メモリーカード」（94ページ）もご覧ください。

START/STOPボタンやPHOTOボタンを押しても撮影できない。

- 再生画面になっている。MODEボタンを押して、（動画）ランプまたは（静止画）ランプを点灯させる（22、24ページ）。
- 直前に撮影した画像を記録メディアに書き込んでいる。書き込んでいる間は、新たに撮影できません。
- 記録メディアの空き容量がない。不要な画像を削除する（45ページ）。
- 動画のシーン数や静止画の枚数が本機で撮影できる上限を超えている。不要な画像を削除する（45ページ）。
- ［落下検出］（89ページ）動作中は、撮影できないことがあります（HDR-XR160）。
- 本機の温度が著しく高くなっている。電源を切り、涼しい場所でしばらく放置する。
- 本機の温度が著しく低くなっている。電源を切り、暖かい場所に移動して、しばらくしたら電源を入れる。

静止画を撮影できない。

- 次の設定のとき、静止画を記録できません。
  - ［なめらかスロー録画］
  - ［ゴルフショット］
  - ［ フェーダー］
- ［ 録画モード］や［ フレームレート］によっては、動画撮影モードで静止画の撮影はできません。

撮影を止めてもアクセスランプがついている。

- 撮影した画像をメモリーカードに書き込んでいる。

画角が異なって見える。

- 本機の状態によっては画角が異なって見える場合があります。故障ではありません。

フラッシュが発光しない（HDR-PJ40V）。

- 次のとき、内蔵フラッシュでの撮影はできません。
  - （動画）ランプが点灯中
  - ［コンバージョンレンズ］が［切］以外に設定されているとき
- 自動調節や（自動赤目軽減）にしていても、次の設定のときフラッシュは自動発光しません。
  - ［Spot測光フォーカス］
  - ［スポット測光］
  - ［カメラ明るさ］が［マニュアル］のとき
  - ［シーンセレクション］の［夜景］、［日の出＆夕焼け］、［打ち上げ花火］、［風景］、［スポットライト］、［ビーチ］、［スノー］

実際の動画の録画可能時間が、目安とされている時間より短い。

- 動きの速い映像を記録したときなど、撮影環境によっては、録画可能時間が短くなります。

録画が止まる。

- 本機の温度が著しく高くなっている。電源を切り、涼しい場所でしばらく放置する。
- 本機の温度が著しく低くなっている。電源を切り、暖かい場所に移動して、しばらくしたら電源を入れる。
- 本機に振動を与えつづけると録画が停止することがあります。

START/STOPボタンを押した時点と、記録された動画の開始・終了時点がずれる。

- 本機では、START/STOPボタンを押してから実際に録画が開始・終了するまでに若干の時間差が生じることがあります。故障ではありません。

動画の横縦比（ワイド/4:3）が切り換えられない。

- ハイビジョン画質（HD）のときは、動画の横縦比は切り換えられません。

オートフォーカスができない。

- [フォーカス]を[オート]にする（73ページ）。
- オートフォーカスが働きにくい状態のときは、手動でピントを合わせる（73ページ）。

手ブレ補正ができない。

- [動画 手ブレ補正]を[アクティブ]または[スタンダード]、[写真 手ブレ補正]を[入]にする（76ページ）。
- [動画 手ブレ補正]が[アクティブ]または[スタンダード]、[写真 手ブレ補正]が[入]になっていても、手ブレが大きすぎると補正しきれないことがあります。

画面をすばやく横切る被写体が曲がって見える。

- フォーカールプレーンという現象で、故障ではありません。撮像素子（CMOSセンサー）の画像信号を読み出す方法の性質により、撮影条件によっては、レンズの前を非常に速く横切る被写体が少しゆがんで見えることがあります。

横帯が現れる。

- 蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯など放電管による照明下ではこのような症状が現れることがありますが、故障ではありません。

テレビやパソコンの画面を撮影すると黒い帯が出る。

- [動画 手ブレ補正]を[アクティブ]以外に設定する（76ページ）。

[パネル明るさ]を調節できない。

- 次のとき、[パネル明るさ]は調節できません。
  - 液晶画面を外側に向けて本体に収めているとき
  - ACアダプターを使用しているとき

音声が正しく記録されない。

- 動画記録中に外部マイクなどを抜いた場合、音声が正しく記憶されない場合があります。
- 動画記録開始時のマイク接続状態に戻すことで正しく記録されます。

再生

画像を再生できない。

- 再生したい画像が入っている記録メディアを選ぶ（18ページ）。
- 再生したい画像の記録画質（ハイビジョン/標準）を選ぶ（33ページ）。
- 他機で撮影した動画・静止画は、再生できなかったり、正しいサイズで表示されなかったりすることがあります。故障ではありません。

静止画が再生できない。

- パソコンでフォルダやファイル名を変更、または画像加工すると、再生できない場合があります（ファイル名が点滅）。故障ではありません。

サムネイル画像の代わりに ? が表示される。

- 他機で撮影した静止画や、パソコンで画像加工した画像などはこのように表示されることがあります。
- 撮影後に液晶画面右上の記録メディアアイコン点灯中や、アクセスランプが消える前に、本機からACアダプターやバッテリーを外した。この操作をすると、画像データが壊れて ? が表示されることがあります。

サムネイル画像の代わりに が表示される。

- 管理ファイルが壊れている。
MENU（メニュー）→［セットアップ］→［（メディア設定）］→［管理ファイル修復］→記録メディアの順にタッチして、管理ファイルの状態をチェックする。それでも消えない場合は が表示されている画像を削除する（45ページ）。

音声が小さい、または聞こえない。

- 音量を大きくする（27ページ）。
- ［マイク基準レベル］（79ページ）を［低］にして記録すると、音声が小さくなる場合があります。
- ［なめらかスロー録画］、［ゴルフショット］で、音声は記録できません。

パソコンや他の再生機器で再生すると、音声の左右のバランスが偏って聞こえる。

- 2chステレオの再生機器の場合は、音声変換の方式（ダウンミックス方式）を切り換える。詳しくは再生機器の取扱説明書をご確認ください。
- 付属のソフトウェア「PMB」を使ってディスク作成するとき、設定を2chに変更する。
- 5.1chサラウンドで撮影した音声を、パソコンや再生機器が2ch（通常のステレオ音声）に変換するときに起きることがある現象で、故障ではありません。
- 撮影するときに本機の［オーディオモード］を［2chステレオ］にする（79ページ）。

デモンストレーション用の動画を再生できない。

- 記録メディアを内蔵記録メディア、記録画質をハイビジョン画質（HD）に設定する。
- デモンストレーション用の動画を削除した場合は、再生できません。

動画が自動的に再生される。

- 本機では撮影した動画が一定の条件を満たしたときに、デモンストレーション用の動画として再生されます（89ページ）。故障ではありません。

他機でのメモリーカード再生

再生できない、またはメモリーカードが認識されない。

- 再生機器がメモリーカードの再生に対応していません（7ページ）。

本機での編集

編集できない。

- 動画の状態により編集ができなくなっている。

分割できない。

- 極端に記録時間の短い動画は分割できません。
- プロテクトをかけた動画は分割できません。

動画から静止画を作成できない

- 静止画を記録する記録メディアの容量が足りない。

テレビでの再生

テレビにつないで再生するとき、画像や音声が出ない。

- D端子A/Vケーブルを使うときは、接続する機器に合わせて[コンポーネント出力]を正しく設定する（86ページ）。
- コンポーネントプラグ（D端子）だけでつないでいるため。D端子A/V接続ケーブルの白と赤のプラグもあわせてつなぐ（29ページ）。
- 著作権保護のための信号が記録されている映像は、HDMI出力端子から出力できません。
- S（S1、S2）映像プラグだけでつないでいるため。A/V接続ケーブルの白と赤のプラグもあわせてつなぐ（30ページ）。

テレビにつないで再生すると、画面の上下左右が若干切れて表示される。

- 本機の液晶画面は記録エリア全体を表示できるフルピクセル表示のため、フルピクセル表示に対応していないテレビにつないで再生すると画面の上下左右が若干切れて表示されます。
- [ガイドフレーム]（79ページ）の外側の枠を目安に撮影する。

4:3テレビにつないで再生したら、画像がつぶれて見える。

- ワイド（16:9）で撮影した動画を4:3テレビで見るときに起こる現象です。[TVタイプ]を正しく設定して再生する（86ページ）。

4:3テレビにつないで再生したら、上下に黒い帯が入る。

- ワイド（16:9）で撮影した動画を4:3テレビで見るときに起こる現象で、故障ではありません。

テレビにつないで再生すると、再生画像が液晶画面に表示されない。

- テレビとつないでハイライト再生やシナリオ再生をすると、再生画像が液晶画面に表示されません。テレビとの接続を解除すると戻ります。

ダビング・外部機器接続

ダビングできない。

- HDMIケーブル(別売)を使ってのダビングはできません。
- A/V接続ケーブルが正しくつながれていない。他機の入力端子へつながれているか確認する(66ページ)。

パソコンとの接続

「PMB」がインストールできない。

- パソコンの環境、インストール手順を確認する。

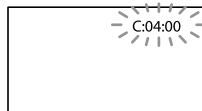
「PMB」が正しく動作しない。

- 「PMB」を終了し、パソコンを再起動する。

本機がパソコンに認識されない。

- キーボード、マウス、本機以外で、パソコンのUSB端子につながれている他の機器を取り外す。
- パソコンから本機のビルトインUSBケーブルを抜き、パソコンを再起動させてから、正しい手順でもう一度パソコンと本機をつなぐ。
- 本機のビルトインUSBケーブルとUSB端子の両方が接続されている場合は、パソコンにつながっていない方を抜く。

自己診断・警告表示

液晶画面に次のように表示されます。2、3回対応を繰り返しても正常に戻らないときは、ソニーの相談窓口(123ページ)にお問い合わせください。CまたはEからはじまる数字すべてをお知らせください。

C: (またはE:)□□:□□(自己診断表示)

C:04:□□

- "インフォリチウム"バッテリー Vシリーズ以外のバッテリーが使われている。必ず"インフォリチウム"バッテリー Vシリーズを使う(109ページ)。
- ACアダプターのDCプラグを本機のDC IN端子にしっかりつなぐ(12ページ)。

C:06:□□

- バッテリーが高温になっている。バッテリーを交換するか、バッテリーを涼しいところに置く。

C:13:□□ / C:32:□□

- 電源をいったん取り外し、取り付け直してからもう一度操作する。

E:□□:□□

- 92ページの手順②からお試しください。

(本機の内蔵ハードディスクに関する警告)

- 本機の内蔵ハードディスクドライブの容量がいっぱいである。
- 本機の内蔵ハードディスクドライブに異常が発生した可能性がある。

（バッテリー残量に関する警告）

- バッテリー残量が少ない。
- 使用状況や環境、バッテリーパックによっては、バッテリー残量が約20分程でも警告表示が点滅することがあります。

（バッテリーの温度に関する警告）

- バッテリーが高温になっている。バッテリーを交換するか、バッテリーを涼しいところに置く。

（温度の上昇関連の警告）

遅い点滅

- 本機の温度が上昇中である。電源を切り、涼しい場所でしばらく放置する。

速い点滅

- 本機の温度が著しく上昇している。電源を切り、涼しい場所でしばらく放置する。

（温度の低下関連の警告）

- 本機の温度が著しく低下している。本機を温める。

（メモリーカード関連の警告）

遅い点滅

- 撮影に必要な空き容量が少なくなっている。本機で使えるメモリーカードについては、19ページをご覧ください。
- メモリーカードが入っていない（19ページ）。

速い点滅

- 撮影に必要な空き容量がない。不要な画像を削除するか、画像を保存（バックアップ）してから（56ページ）、メモリーカードをフォーマットする（84ページ）。
- 管理ファイルが壊れている。
  MENU（メニュー）→［セットアップ］→［（メディア設定）］→［管理ファイル修復］→記録メディアの順にタッチして、管理ファイルの状態をチェックする。
- メモリーカードが壊れている。

（メモリーカードのフォーマット関連の警告）

- メモリーカードが壊れている。
- メモリーカードが正しくフォーマットされていない（84ページ）。

（非対応メモリーカード関連の警告）

- 本機では使えないメモリーカードを入れた（19ページ）。

（メモリーカード誤消去防止に関する警告）

- メモリーカードの誤消去防止スイッチが書き込み禁止になっている。
- 他機でアクセスコントロールをかけたメモリーカードを使っている。

（外付けメディア関連の警告）

- 管理ファイルが壊れている。
  MENU（メニュー）→［セットアップ］→［（メディア設定）］→［管理ファイル修復］→記録メディアの順にタッチして、管理ファイルの状態をチェックする。
- 外付けメディアが壊れている。

（外付けメディアのフォーマット関連の警告）

- 外付けメディアが壊れている。
- 外付けメディアが正しくフォーマットされていない。

（フラッシュ関連の警告）

- フラッシュに異常がある。

（手ブレ警告）

- 光量不足のため、手ブレが起こりやすい状況になっているので、フラッシュを使う（HDR-PJ40V）。
- 手ブレが起こりやすくなっているので、本機を両手でしっかりと固定して撮影する。ただし、手ブレマークは消えません。

（落下検出警告）

- 落下検出機能（89ページ）が有効で、かつ落下を検出したため、内蔵ハードディスクを保護する処理を実行している。画像の撮影/再生ができなくなることがあります。
- 本機能は、すべての状況からの保護を保証するものではありません。本機を安定した状態に保ってご使用ください。

（静止画撮影に関する警告）

- メディアの空き容量がない。
- 処理中のため、一時的に静止画記録ができない。しばらく待ってから撮影する。
- [録画モード]を[最高画質 FX]、[60p画質 PS]に設定しているときは、動画記録中に静止画の撮影はできません。また、[フレームレート]を[24p]に設定しているとき（HDR-PJ40V）は、動画撮影モードで静止画を撮影できません。

ちょっと一言

- メッセージによっては表示されるときに警告音が鳴ります。

お知らせメッセージの例

お知らせメッセージが表示されたときは、その指示に従ってください。

記録メディア

内蔵メモリーが認識できません フォーマットしてからお使いください HDDが認識できません フォーマットしてからお使いください

- 本機の内蔵記録メディアが、出荷時と異なるフォーマットになっている。[フォーマット]（84ページ）を行うと使えることがあります。その場合データはすべて消去されます。

データエラーが発生しました

- 本機の内蔵記録メディアへの書き込み中、または読み出し中にエラーが生じた。
- メッセージの前にGPSアイコンが付いている場合は、GPS受信機に問題が起きている可能性がある。本機の電源を入れ直す（HDR-PJ40V）。
- 本機に振動を与えつづけたときに、発生することがあります。
- 他機で撮影した動画は再生できないことがあります。

管理ファイルに不整合が見つかりました 修復しますか？ 管理ファイルに不整合が見つかりました HD動画を記録・再生できません　修復しますか？

- 管理ファイルが破損しているので、動画・静止画撮影ができません。[OK]をタッチして修復する。

その他

管理ファイルに不整合が見つかりました バックアップして修復します　修復したあと同梱のPCソフトウェアで取り込んでください

- ハイビジョン画質（HD）の動画の管理情報が破損し、管理ファイルとの間に不整合が発生しています。[OK]をタッチするとハイビジョン画質（HD）の動画をバックアップして管理ファイルを修復します。バックアップされた動画は本機では認識できません。
  修復したあと本機を付属のソフトウェア「PMB」をインストールしたパソコンとつなぐと、バックアップされたハイビジョン画質（HD）の動画をパソコンに取り込むことができます。
  ただし、すべての動画の取り込みを保証するものではありません。

バッファオーバー　メディアへの書き込みが 間に合いませんでした

- 落下検出が繰り返されたため、録画できない。落下が繰り返し発生する環境で撮影する場合は、[落下検出]を[切]にすると録画できる場合があります（89ページ）（HDR-XR160）。
- 記録と削除を繰り返したり、他機でフォーマットしたメモリーカードが使われている。データをパソコンなどのハードディスクにバックアップした後、本機でフォーマットし直す（84ページ）。
- お使いのメモリーカードの書き込み性能が、動画の記録時間に充分ではありません。本機での使用をおすすめしているメモリーカードをお使いください（19ページ）。

データ修復中

- 本機のメディアに正常な記録がされなかった場合、自動的にデータの修復を試みます。

データを修復できませんでした

- データ書き込みに失敗したため修復を試みたが、データが復活しなかった。本機のメディアへの書き込みや編集ができなくなる場合があります。

メモリーカードを入れなおしてください

- メモリーカードを2、3回入れ直す。それでも表示されるときはメモリーカードが壊れている可能性があるので交換してください。

このメモリーカードは認識できません フォーマットしてからお使いください

- メモリーカードを本機でフォーマットする（84ページ）。フォーマットすると、メモリーカードに記録されているすべてのデータが消去されますので、ご注意ください。

静止画用フォルダがいっぱいです 静止画の記録はできません

- 作成できるフォルダは、999MSDCFまでです。本機でフォルダの作成、消去はできません。
- フォーマットするか（84ページ）、パソコンで不要なフォルダを消去する。

このメモリーカードは動画を記録・再生できない可能性があります

- 本機での使用をおすすめしているメモリーカードをお使いください（19ページ）。

このメモリーカードは正常に記録・再生できない可能性があります

- 本機での使用をおすすめしているメモリーカードをお使いください(19ページ)。
- ソニーの相談窓口(123ページ)にお問い合わせください。

書き込み中にメモリーカードが抜かれました　データが壊れた可能性があります

- メモリーカードをもう一度入れて、画面の指示に従う。

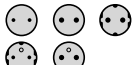
外部メディアは実行できない状態です

- MENU(メニュー)→[セットアップ]→[(メディア設定)]→[管理ファイル修復]→記録メディアの順にタッチして、管理ファイルの状態をチェックする。
- それでも表示される場合は、外付けメディアを接続し直したあと、フォーマットしてください。フォーマットすると、外付けメディアに記録されているすべてのデータが消去されますので、ご注意ください。
- フォーマットに失敗する場合は、本機で対応していない外付けメディアか、もしくはメディアが壊れている可能性があるので交換してください。

その他

制限枚数を超えています

- 次のときは、1度に100個までしか画像を選択できません。
  - 画像の削除
  - 画像のプロテクト、解除
  - 画像のコピー

このデータはプロテクトされています

- プロテクトされた動画・静止画を削除しようとした。プロテクトを解除する。

海外で使う

電源について

本機は、海外でも使えます。
付属のACアダプターは、全世界の電源（AC100V ～ 240V、50Hz/60Hz）で使えます。また、バッテリーも充電できます。
ただし、電源コンセントの形状の異なる国や地域では、電源コンセントに合った変換プラグアダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。
電子式変圧器（トラベルコンバーター）は使わないでください。故障の原因となることがあります。

海外のコンセントの種類

壁のコンセントの形状例	主に北米	主にヨーロッパなど
使用する変換プラグアダプター	不要	

ハイビジョン画質（HD）で見るには

ハイビジョン画質（HD）で記録した画像をハイビジョン画質（HD）で見るには、ハイビジョン対応のテレビ（またはモニター）とコンポーネントA/Vケーブル（別売）またはHDMIケーブル（別売）が必要です。
本機の再生するハイビジョン信号に対応している主な国、地域は「テレビ方式がNTSCの国、地域（五十音順）」を参照してください。

標準画質（STD）で見るには

標準画質（STD）で記録した再生画像を見るには、日本と同じカラーテレビ方式（NTSC、下記参照）で、映像/音声入力端子付きのテレビ（またはモニター）と接続ケーブルが必要です。

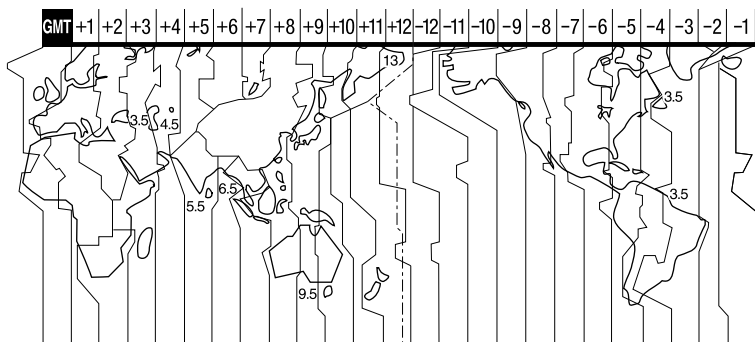
テレビ方式がNTSCの国、地域（五十音順）

アメリカ合衆国、エクアドル、エルサルバドル、ガイアナ、カナダ、キューバ、グアテマラ、グアム、コスタリカ、コロンビア、サモア、スリナム、セントルシア、大韓民国、台湾、チリ、ドミニカ、トリニダード・トバゴ、ニカラグア、日本、ハイチ、パナマ、バミューダ、バルバドス、フィリピン、プエルトリコ、ベネズエラ、ペルー、ボリビア、ホンジュラス、ミクロネシア、ミャンマー、メキシコなど

現地の時間に合わせるには

海外で使うときは、MENU（メニュー）→［セットアップ］→［（時計設定）］→［日時設定］→［サマータイム］と、MENU（メニュー）→［セットアップ］→［（時計設定）］→［エリア設定］を設定するだけで、時刻を現地時間に合わせることができます（90ページ）。
［自動時刻補正］・［自動エリア補正］が［入］の場合、GPSにより自動的に現地時間に設定されます（90ページ）（HDR-PJ40V）。

世界時刻表

その他

使用上のご注意とお手入れ

AVCHD規格について

AVCHD規格とは

「AVCHD」規格は、高効率の圧縮符号化技術を用いて、HD(ハイビジョン)信号を記録するハイビジョンデジタルビデオカメラの規格です。映像圧縮にはMPEG-4 AVC/H.264方式を、音声にはドルビーデジタル方式、またはリニアPCM方式を採用しています。
MPEG-4 AVC/H.264方式は、従来の画像圧縮方式に比べ、さらに高い圧縮効率を持った優れた方式です。

- AVCHDは圧縮方式を使用しているため、画面、画角、輝度などが大きく変化する場面では画像が乱れることがありますが故障ではありません。

本機での記録・再生について

本機ではAVCHD規格に基づき、HD(ハイビジョン)記録ができます。
また、AVCHD規格でのHD(ハイビジョン)記録に加え、従来からのMPEG-2規格でSTD(標準)記録することもできます。

映像*：MPEG-4 AVC/H.264 1920×1080/60i、1440×1080/60i、1920×1080/24p(HDR-PJ40V)
音声：ドルビーデジタル2ch/5.1ch
記録メディア：
　HDR-PJ20/PJ40V：
　内蔵メモリー、メモリーカード
　HDR-XR160：
　内蔵ハードディスク、メモリーカード

* 本機は、上記以外のAVCHD規格で記録されたデータの再生には対応していません。

GPSについて(HDR-PJ40V)

GPS(Global Positioning System)とは、米国の高精度な航法衛星を利用した地球上のどこにいても自分の正確な位置を知ることができるシステムです。
GPS衛星は、高度20,000kmの6つの軌道上に各4個、24個以上が設置されています。GPS衛星からの電波を受信し、衛星の軌道情報(アルマナックデータ)と電波の伝播時間のデータなどから自分の位置を計算します。
位置を計算することを測位と呼び、衛星は3機以上受信できれば、緯度、経度がわかります。

- GPS衛星の配置は常に変化しているため、ご使用になる場所や時刻などの条件によっては測位に時間がかかったり、測位できないことがあります。
- GPSは衛星から電波を受信し測位するシステムです。ビルや木立の陰など、電波を遮断・反射してしまう場所を避け、できるだけ上空の開けた場所でご使用ください。
- GPS衛星からの電波が届かない以下のような場所や状況では、位置情報を記録できないことがあります。
  - トンネルの中・屋内やビルの陰
  - 高層ビルの間・建物の間の狭い道路
  - 地下・密集した樹木の間・高架の下・高圧電線など、近くに磁気を発生するものがある場合
  - 1.5GHz帯の携帯電話など、近くに同じ周波数帯の電波を発生するものがある場合

誤差について

- 本機の電源を入れた直後に移動すると、移動しなかった場合にくらべて、測位までの時間が長くなることがあります。

- GPS衛星自体による誤差
  本機は、3個以上のGPS衛星からの電波を受信すると自動的に現在地を測位します。GPS衛星自体による誤差は、約10m程度ですが、測位する周辺の環境によってはさらに大きな誤差を生じることがあります。このような場合は、実際に居た場所と地図上での位置が異なることがあります。また、GPS衛星は米国国防総省により管理されており、意図的に精度が変更されることがあります。
- 測位時間による誤差
  本機では測位中に位置情報を定期的に取得しています。位置情報の取得と画像への書き込みに若干の時間差があるため、実際に画像を撮影した位置と地図上の位置が異なる場合があります。

規制について

- 使用する国や地域、またご利用になる場所の規制に従ってGPSをお使いください。

地図データについて

- 地図データには主に下記の国・地域が収録されています。（五十音順）
  オセアニア・北アメリカ・日本・ヨーロッパなど
- 収録されている日本地図は株式会社ゼンリン、海外地図はNAVTEQによって提供されています。
- 地図データの内容は制作時現在のものです。
- 地図は2Dで表示されます。また、地図上で一部の建物などが3Dアイコンで表現されているのは日本の地図のみです。
- 地図は常に北を上に表示するノースアップ固定です。
- 地図上の言語は変更できません。
- 地図データの更新は行えません。
- 地図の縮尺は、25m ～ 6000kmです。

測地系について

- 本機では、測地系として、「WGS-84」を採用しています。

著作権について

- 本機に搭載されている地図データは、個人として使用するほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ナビゲーション機能について

- 本機はナビゲーション機能を搭載していません。

日本
- 日本の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用しています。（承認番号　平20業使、第204-46号）
- 日本の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院の技術資料H•1-No.3「日本測地系における離島位置の補正量」を使用しています。（承認番号　国地企調発第78号平成16年4月23日）

Australia
  Copyright. Based on data provided under license from PSMA Australia Limited (www.psma.com.au).
Austria
  © Bundesamt für Eich- und Vermessungswesen
Croatia, Estonia, Latvia, Lithuania, Poland and Slovenia
  © EuroGeographic
France
  source: Géoroute® IGN France & BD Carto ® IGN France
Germany
  Die Grundlagendaten wurden mit Genehmigung der zustaendigen Behoerden entnommen.
Great Britain
  Based upon Crown Copyright material.
Greece
  © EuroGeographics; Copyright Geomatics Ltd.

その他

Hungary
Copyright © 2003; Top-Map Ltd.
Italy
La Banca Dati Italiana è stata prodotta usando quale riferimento anche cartografia numerica ed al tratto prodotta e fornita dalla Regione Toscana.
Norway
Copyright © 2000; Norwegian Mapping Authority
Portugal
Source: IgeoE – Portugal
Spain
Información geográfica propiedad del CNIG
Sweden
Based upon electronic data © National Land Survey Sweden.
Switzerland
Topografische Grundlage: © Bundesamt für Landestopographie.

メモリーカードについて

- パソコン(Windows OS/Mac OS)でフォーマット(初期化)したメモリーカードは、本機での動作を保証しません。
- お使いのメモリーカードと機器の組み合わせによっては、データの読み込み・書き込み速度が異なります。
- 次の場合、画像ファイルが破壊されることがあります。破壊された場合、内容の補償についてはご容赦ください。
  - 画像ファイルを読み込み中や、メモリーカードにデータを書き込み中(アクセスランプが点灯中および点滅中)に、メモリーカードを取り出したり、本機の電源を切ったりした場合
  - 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使った場合
- 大切なデータは、パソコンのハードディスクなどへバックアップを取っておくことをおすすめします。
- メモリーカード本体およびメモリーカードアダプターにラベルなどは貼らないでください。
- 端子部に触れたり、金属を接触させたりしないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲み込むおそれがあります。
- メモリーカードスロットには、対応するサイズのメモリーカード以外は入れないでください。故障の原因となります。
- 次の場所での使用や保管は避けてください。
  - 高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
  - 直射日光のあたる場所
  - 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

メモリーカードアダプターの使用について

- メモリーカードをメモリーカードアダプターに入れるときは、正しい挿入方向をご確認のうえ、奥まで差し込んでください。差し込みかたが不充分だと、正常に動作しない場合があります。

画像の互換性について

- 本機は(社)電子情報技術産業協会にて制定された統一規格"Design rule for Camera File system"に対応しています。
- 統一規格に対応していない機器(DCR-TRV900、DSC-D700/D770)で記録された静止画像は本機では再生できません。
- 他機で使用したメモリーカードが本機で使えないときは、本機でフォーマットしてください(84ページ)。フォーマットするとメモリーカードに記録してあるデータはすべて消去されますので、ご注意ください。
- 次の場合、正しく画像を再生できないことがあります。
  - パソコンで加工した画像データ
  - 他機で撮影した画像データ

“メモリースティック”について

“メモリースティック”の種類	記録・再生
“メモリースティック デュオ”（マジックゲート対応）	—
“メモリースティック PRO デュオ”（Mark2）	○
“メモリースティック PRO-HG デュオ”	○

- 本機はパラレルデータ転送に対応しております。ただしお使いのメディアによって転送速度は異なります。
- 本機はマジックゲート機能を使ったデータの記録・再生に対応していません。“マジックゲート”とは暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーについて

本機は“インフォリチウム”バッテリー（Vシリーズ）のみ使用できます。それ以外のバッテリーは使えません。“インフォリチウム”バッテリー Vシリーズには InfoLITHIUM V マークがついています。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーとは？

- “インフォリチウム”バッテリーは、本機や別売のACアダプター/チャージャーとの間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。
- “インフォリチウム”バッテリーが、本機の使用状況に応じた消費電力を計算してバッテリー残量を分単位で表示します。
- バッテリー NP-FV50は、“ActiFORCE”に対応しています。
  “ActiFORCE”とは、当社従来の“インフォリチウム”バッテリー Pシリーズ電源システムと比較して高容量、急速充電、バッテリー残量計算精度・スピードを改善した、次世代電源システムの機能名称です。

充電について

- 本機を使う前には、必ずバッテリーを充電してください。
- 周囲の温度が10℃～30℃の範囲で、CHG（充電）ランプ（HDR-PJ20/XR160）または⚡/CHG（フラッシュ/充電）ランプ（HDR-PJ40V）が消えるまで充電することをおすすめします。これ以外では効率の良い充電ができないことがあります。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が10℃未満になるとバッテリーの性能が低下するため、使える時間が短くなります。安心してより長い時間使うために、次のことをおすすめします。
  - バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前、本機に取り付ける
  - 高容量バッテリー「NP-FV70/FV100」（別売）を使う
- 液晶パネルの使用や再生・早送り・早戻しなどを頻繁にすると、バッテリーの消耗が早くなります。高容量バッテリー「NP-FV70/FV100」（別売）のご使用をおすすめします。
- 本機で撮影や再生をしていないときは、こまめに液晶画面を閉じるようにしましょう。撮影スタンバイ状態や再生一時停止中でもバッテリーは消耗しています。
- 撮影には予定撮影時間の2～3倍の予備バッテリーを準備して、事前にためし撮りをしましょう。
- バッテリーは防水構造ではありません。ぬらさないようにご注意ください。

バッテリーの残量表示について

- バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる場合は、再び満充電してください。残量が正しく表示されます。ただし、長時間高温で使ったり、満充電で放置した場合や、使用回数が多いバッテリーは正しい表示に戻らない場合があります。撮影時間の目安として使ってください。

- バッテリー残量時間が約20分程度でも、ご使用状況や周囲の温度環境によってはバッテリー残量が残り少なくなったことを警告する マークが点滅することがあります。

バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長期間使用しない場合でも、機能を維持するために1年に1回程度満充電にして本機で使い切ってください。本機からバッテリーを取り外して、湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- 本機でバッテリーを使い切るには、MENU（メニュー）→［セットアップ］→［（一般設定）］→［自動電源オフ］→［切］に設定し、電源が切れるまで撮影スタンバイにしてください（89ページ）。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

x.v.Color（エックスブイ・カラー）について

- x.v.Colorとは、xvYCC規格の親しみやすい呼称としてソニーが提案している商標です。
- xvYCC規格とは、動画色空間の国際規格のひとつです。現行の放送などで使われている規格より広い色彩が表現できます。

本機の取り扱いについて

使用や保管場所について

使用中、保管中にかかわらず、次のような場所に置かないでください。

- 異常に高温、低温または多湿になる場所
  炎天下や熱器具の近くや、夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 激しい振動や強力な磁気のある場所
  故障の原因になります。
- 強力な電波を出す場所や放射線のある場所
  正しく撮影できないことがあります。
- TV、ラジオやチューナーの近く
  雑音が入ることがあります。
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  砂がかかると故障の原因になるほか、修理できなくなることもあります。
- 液晶画面やレンズが太陽に向いたままとなる場所（窓際や室外など）
  液晶画面やレンズ内部を傷めます。

長期間使用しないときは

- 本機を良好な状態で長期にわたってお使いいただくために、月に1回程度、本機の電源を入れて撮影および再生を行ってください。
- バッテリーは使い切ってから保管してください。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本体内に水滴が付くことで、故障の原因になります。

- 結露が起きたときは
  電源を入れずに、結露がなくなるまで（約1時間）放置してください。
- 結露が起こりやすいのは
  次のように、温度差のある場所へ移動したり、湿度の高い場所で使ったりするときです。
  - スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
  - 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき
  - スコールや夏の夕立の後
  - 温泉など高温多湿の場所
- 結露を起こりにくくするために
  本機を温度差の激しい場所へ持ち込むときは、ビニール袋に空気が入らないように入れて密封します。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

液晶画面について

- 液晶画面を強く押すと、画面にムラが出ることがあります。また、液晶画面の故障の原因になります。
- 寒い場所でお使いになると、画像が尾を引いて見えることがありますが、故障ではありません。
- 使用中に液晶画面のまわりが熱くなりますが、故障ではありません。

液晶画面のお手入れ

- 液晶画面に指紋やゴミが付いて汚れたときは、柔らかい布などを使ってきれいにすることをおすすめします。

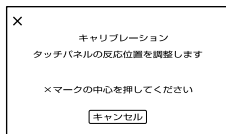
プロジェクターのレンズ表面のお手入れについて（HDR-PJ20/PJ40V）

- プロジェクターのレンズ表面についた汚れは、メガネ拭きやクリーニングクロス等の柔らかい布で軽く拭いてください。
- 汚れがひどいときは、メガネ拭きやクリーニングクロス等の柔らかい布に水を少し含ませて、拭きとってください。
- アルコールやベンジン、シンナー、酸性洗浄液、アルカリ性洗浄液、研磨剤入り洗浄剤、化学ぞうきん等はレンズ表面を傷めますので、絶対に使用しないでください。

タッチパネルの調節（キャリブレーション）について

タッチパネルのボタンを押したとき、反応するボタンの位置にずれが生じることがあります。
このような症状になったときは、次の操作を行ってください。電源は付属のACアダプターを使ってコンセントから取ってください。

① MENU（メニュー）→［セットアップ］→［🔧（一般設定）］→［キャリブレーション］をタッチする。

×
キャリブレーション
タッチパネルの反応位置を調整します
×マークの中心を押してください
キャンセル

② メモリーカードの角のような先の細いものを使って、画面に表示される×マークを3回タッチする。
解除するには［キャンセル］をタッチする。

ご注意

- 正しい位置を押さなかった場合、やり直しになります。
- キャリブレーションするときは、先のとがったものを使わないでください。液晶画面を傷つけるおそれがあります。
- 液晶画面を反転させているときや、外側に向けて本体に閉じたときは、キャリブレーションできません。

本機表面のお手入れについて

- 汚れのひどいときは、水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いた後、からぶきします。
- 本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、以下は避けてください。
  - シンナー、ベンジン、アルコール、化学ぞうきん、虫除け、殺虫剤、日焼け止めのような化学薬品類
  - 上記が手に付いたまま本機を扱う
  - ゴムやビニール製品との長時間接触

レンズのお手入れと保管について

- レンズ面に指紋などが付いたときや、高温多湿の場所や海岸など塩の影響を受ける環境で使ったときは、必ず柔らかい布などでレンズの表面をきれいに拭いてください。
- 風通しの良い、ゴミやほこりの少ない場所に保管してください。
- カビの発生を防ぐために、上記のお手入れは定期的に行ってください。

内蔵の充電式電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切と関係なく保持するために、充電式電池を内蔵しています。充電式電池は本機を使っている限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し、3か月近くまったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使ってください。

ただし、充電式電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使えます。

充電方法

本機を付属のACアダプターを使ってコンセントにつなぐか、充電されたバッテリーを取り付け、液晶画面を閉じて24時間以上放置する。

本機の廃棄・譲渡に関するご注意

動画と静止画の全削除や、[フォーマット]を行っても、本機の内蔵記録メディア内のデータは完全には消去されないことがあります。本機を譲渡するときは、[データ消去](84ページ)を行って、内蔵記録メディア内のデータの復元を困難にすることをおすすめします。本機を廃棄するときは、本機を物理的に破壊することをおすすめします。

メモリーカードを廃棄・譲渡するときのご注意

本機やパソコンの機能による「フォーマット」や「削除」では、メモリーカード内のデータは完全には消去されないことがあります。メモリーカードを譲渡するときは、パソコンのデータ消去用ソフトなどを使ってデータを完全に消去することをおすすめします。またメモリーカードを廃棄するときは、メモリーカード本体を物理的に破壊することをおすすめします。

商標について

- "ハンディカム"、HANDYCAMはソニー株式会社の登録商標です。
- AVCHDおよびAVCHDロゴは、ソニー株式会社とパナソニック株式会社の商標です。
- "Memory Stick"、"メモリースティック"、MEMORY STICK™、"メモリースティック デュオ"、MEMORY STICK Duo"メモリースティック PRO デュオ"、MEMORY STICK PRO Duo、"メモリースティック PRO-HG デュオ"、MEMORY STICK PRO-HG Duo、"マジックゲート"、MAGICGATE、"MagicGate Memory Stick"、"マジックゲート メモリースティック"、"MagicGate Memory Stick Duo"、"マジックゲート メモリースティック デュオ"はソニー株式会社の商標または登録商標です。
- InfoLITHIUM(インフォリチウム)はソニー株式会社の商標です。
- "x.v.Color"はソニー株式会社の商標です。
- "BIONZ"はソニー株式会社の商標です。
- S-master はソニー株式会社の登録商標です。
- ブラビアはソニー株式会社の登録商標です。
- DVDirectはソニー株式会社の商標です。
- Blu-ray Disc™およびBlu-ray™はブルーレイディスク アソシエーションの商標です。
- Dolby、ドルビー、およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの米国およびその他の国における登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vista、DirectXはMicrosoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OSはApple Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
- Intel、Intel Core、Pentiumは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるインテル コーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。
- "プレイステーション®3"は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの商品です。また、"PS"、"プレイステーション"および"PlayStation"は同社の登録商標です。
- Adobe、Adobe logo、Adobe Acrobatは、Adobe Systems Incorporatedの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- NAVTEQおよびNAVTEQ Mapsロゴは、NAVTEQの米国およびその他の国における商標です。

- SDXCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- MultiMediaCardは、MultiMediaCard Associationの商標です。

その他の各社名および各商品名は各社の登録商標または商標です。なお、本文中では、™、®マークは明記していません。

"Works with Play Station 3"ロゴは、特定のPlayStation 3専用ソフトウェアと連携することで、さらなる楽しみを提供する製品につけるマークです。

ライセンスに関する注意

個人的使用以外の目的で、MPEG-2規格に合致した本製品をパッケージメディア向けビデオ情報をエンコードするために使用する場合、MPEG-2 PATENT PORTFOLIOの特許に関するライセンスを取得する必要があります。尚、当該ライセンスは、MPEG LA. L.L.C.,（住所：250 STEELE STREET, SUITE 300, DENVER, COLORADO 80206）より取得可能です。

本製品は、MPEG LA, LLC.がライセンス活動を行っているAVC PATENT PORTFOLIO LICENSEの下、次の用途に限りライセンスされています：

（i）消費者が個人的、非営利の使用目的で、MPEG-4 AVC規格に合致したビデオ信号（以下、AVC VIDEOといいます）にエンコードすること。

（ii）AVC Video（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、若しくはMPEG LAよりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。

なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC.のホームページをご参照ください。

本製品には、弊社がその著作権者とのライセンス契約に基づき使用しているソフトウエアである「C Library」、「zlib」、「libjpeg」が搭載されております。当該ソフトウエアの著作権者様の要求に基づき、弊社はこれらの内容をお客様に通知する義務があります。

ライセンス内容に関しては同梱CD-ROMに記載されていますので、以下に示す方法にしたがって、内容をご一読くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

CD-ROMの「License」フォルダにある「license3.pdf」をご覧ください。「C Library」、「zlib」、「libjpeg」の記載（英文）が収録されています。

GNU GPL/LGPL適用ソフトウエアに関するお知らせ

本製品には、以下のGNU General Public License（以下「GPL」とします）またはGNU Lesser General Public License（以下「LGPL」とします）の適用を受けるソフトウエアが含まれております。お客様は添付のGPL/LGPLの条件に従いこれらのソフトウエアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。

ソースコードは、Webで提供しております。

ダウンロードする際には、以下のURLにアクセスし、モデル名HDR-CX180をお選びください。

http://www.sony.net/Products/Linux/

なお、ソースコードの中身についてのお問い合わせはご遠慮ください。

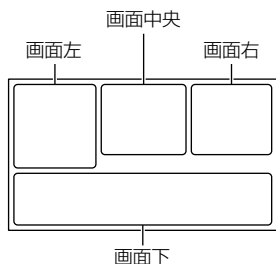
ライセンス内容に関しては、同梱CD-ROMに記載されていますので、以下に示す方法にしたがって、内容をご一読くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

CD-ROMの「License」フォルダにある「license2.pdf」をご覧ください。「GPL」、「LGPL」の記載（英文）が収録されています。

PDFをご覧になるにはAdobe Readerが必要です。パソコンにインストールされていない場合には下記のホームページからダウンロードすることができます。

http://www.adobe.com/

画面表示

画面左

表示	意味
MENU	メニューボタン(68)
	セルフタイマー(75)
	GPS測位状況(42)
	ビデオライト
4:3	ワイド切換(81)
B W	フェーダー(75)
OFF	顔検出切(77)
OFF	スマイル検出切(77)
	手動フォーカス(73)
	シーンセレクション(74)
	ホワイトバランス(72)
OFF	手ブレ補正切(76)
T	テレマクロ(75)
(COLOR)	x.v.Color(81)
W T	コンバージョンレンズ(76)
	訪問先(90)
	おまかせオート(顔認識/シーン認識/手ブレ検出)(32)
OFF	落下検出切(89)
	落下検出中(89)

画面中央

表示	意味
[スタンバイ]/[●録画]	撮影状態(22)
	スライドショー設定
	警告(99)
	再生表示(27)

画面右

表示	意味
HD 60i HQ	記録画質(HD/STD)/フレームレート(60p/60i/24p)/録画モード(PS/FX/FH/HQ/LP)(33)
60分	バッテリー残量の目安
	記録/再生/編集メディア(18)
0:00:00	カウンター(時:分:秒)
00分	記録残量時間の目安
7.1M 5.3M 3.3M 2.5M 1.9M VGA	静止画サイズ(82)
9999 → 9999 → 9999 →	およその静止画撮影可能枚数と静止画サイズ
101	メモリーカードの再生フォルダ
100/112	再生中の動画・静止画の番号/記録している動画・静止画の数(27)
	外付けメディア接続(59)

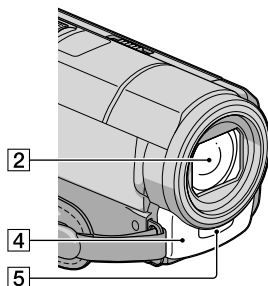
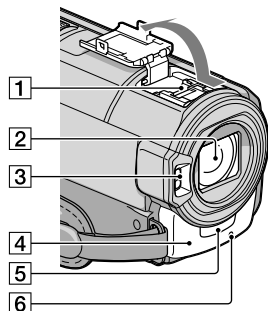
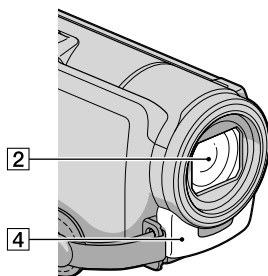
各部のなまえ

画面下

表示	意味
▶	画像再生ボタン(25)
	マイク基準レベル低(79)
	風音低減(79)
	内蔵ズームマイク(79)
♪5.1ch ♪2ch	オーディオモード(79)
	音声レベル表示(80)
	Low Lux(74)
	Spot測光フォーカス(72)/スポット測光(73)/カメラ明るさ(73)
i AUTO	おまかせオート(32)
	スライドショーボタン
101-0005	データファイル名(28)
	プロテクト(46)
	フラッシュ(78)/赤目軽減(78)

- 表示内容や位置は目安であり、実際と異なることがあります。
- お使いの機種によって表示されないものがあります。

(　)内は参照ページです。

HDR-PJ20

HDR-PJ40V

HDR-XR160

1 アクティブインターフェースシュー（HDR-PJ40V）

Active Interface Shoe

専用マイクやフラッシュなどを使うときに、本機から電源供給し、本機の電源の入/切に連動して接続機器の電源の入/切ができます。お使いになるアクセサリーの取扱説明書をあわせてご覧ください。
接続機器が外れにくい構造になっています。取り付けるときは、押しながら奥まで差し込み、ネジを確実に締め付けてください。取り外すときは、ネジをゆるめ、上から押しながら外してください。

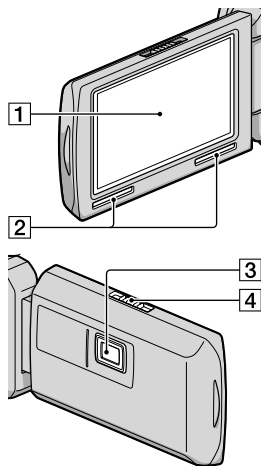
- シューカバーを開閉するときは、矢印の方向にずらしてください。
- フラッシュ（別売）を付けたまま撮影するときは、充電音が録音されないように、フラッシュの電源を切ってください。
- 別売のフラッシュと内蔵フラッシュは同時に使えません。
- 外部マイクをつなぐと、その音声が内蔵マイクよりも優先されます（35ページ）。

2 レンズ（Gレンズ搭載）

3 フラッシュ /ビデオライト発光部（HDR-PJ40V）

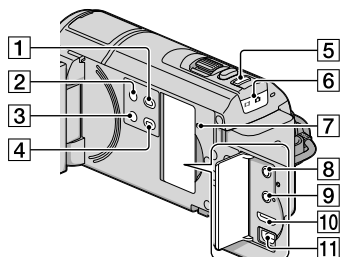
4 内蔵マイク（35）

5 リモコン受光部
リモコン（119ページ）は、リモコン受光部に向けて操作します。

6 録画ランプ（88）
録画時に赤く点灯します。
記録メディアやバッテリーの残量が少なくなると点滅します。

1 液晶画面/タッチパネル（16、36）
液晶画面を180°回転させたまま、外側に向けて本体に収められます。本機で画像を再生するときに便利です。

2 スピーカー

3 プロジェクターレンズ（HDR-PJ20/PJ40V）

4 フォーカスレバー（HDR-PJ20/PJ40V）

1 ▶(画像再生)ボタン(25)

2 POWER(電源)ボタン(16)

3 LIGHT(ビデオライト)ボタン
(HDR-PJ40V)(36)

4 プロジェクターボタン
(HDR-PJ20/PJ40V)(40)

5 MODE(モード)ボタン(22、24)

6 (動画)/(静止画)ランプ(22、24)

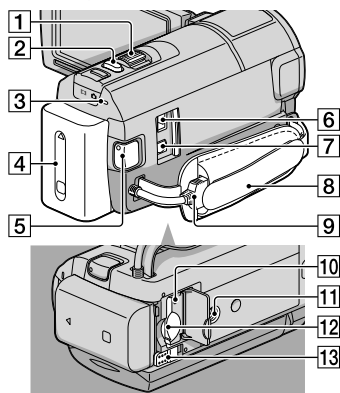
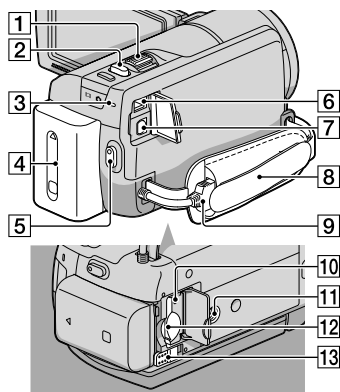
7 RESET(リセット)ボタン
先のとがったもので押してください。
日時を含めすべての設定が解除されます。

8 (ヘッドホン)端子(HDR-PJ20/PJ40V)

9 MIC(PLUG IN POWER)端子

10 HDMI OUT端子(29)

11 (USB)端子(58、62)

HDR-PJ20/PJ40V

HDR-XR160

1 ズームレバー(28、32)

2 PHOTO(フォト)ボタン(24)

3 CHG(充電)ランプ(HDR-PJ20/XR160)、
/CHG(フラッシュ /充電)ランプ(HDR-PJ40V)(12)

4 バッテリーパック(12)

5 START/STOP(スタート/ストップ)ボタン(22)

6 DC IN端子(12)

7 A/Vリモート端子(29)

8 グリップベルト(21)

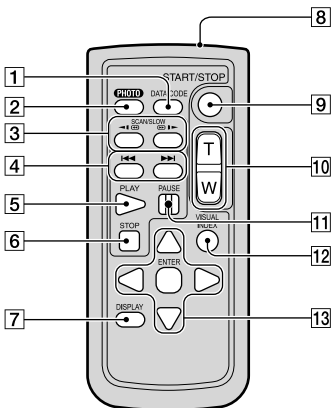
9 ビルトインUSBケーブル(13)

10 メモリーカードアクセスランプ(20)
点灯、点滅中は、データの読み書きを行っています。

11 三脚用ネジ穴
三脚(別売、ネジの長さが5.5mm以下)を三脚用ネジ穴に取り付けます。

12 メモリーカード スロット(20)

13 BATT(バッテリー)取り外しレバー(14)

ワイヤレスリモコン (HDR-PJ20/PJ40V)

1 DATA CODE(データコード)ボタン(85)
再生中に押すと、日付時刻データ/カメラデータ/緯度経度データ(HDR-PJ40V)を表示します。

2 PHOTO(フォト)ボタン(24)
押したときの画像が静止画として記録されます。

3 SCAN/SLOW(スキャン/スロー)ボタン(27)

4 ⏮/⏭(前の画像/次の画像)ボタン(27)

5 PLAY(再生)ボタン

6 STOP(停止)ボタン

7 DISPLAY(画面表示)ボタン(22)

8 リモコン発光部

9 START/STOP(スタート/ストップ)ボタン(22)

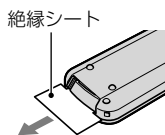
10 ズームボタン

11 PAUSE(一時停止)ボタン

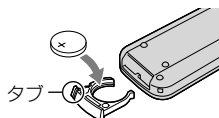
12 VISUAL INDEX(ビジュアルインデックス)ボタン(25)
再生中に押すと、インデックス画面を表示します。

13 ◀/▶/▲/▼/ENTER(決定)ボタン
いずれかのボタンを押すと、本機の画面にオレンジ色の枠が表示されます。
◀/▶/▲/▼で画面上の希望のボタンまたは項目を選び、ENTER(決定)ボタンを押す。

ご注意

- 絶縁シートを引き抜いてからリモコンを使ってください。

- 本機前面のリモコン受光部に向けて操作してください(117ページ)。
- 一定時間リモコンからの操作がないと、オレンジ色の枠は消えます。再び◀/▶/▲/▼またはENTER(決定)ボタンのいずれかを押すと、最後に表示されていた位置に枠が表示されます。
- ◀/▶/▲/▼で操作できないボタンもあります。

リモコンの電池を交換するには
（HDR-PJ20/PJ40V）

① タブを内側に押し込みながら、溝に爪をかけて電池ケースを引き出す。
② +面を上にして新しい電池を入れる。
③ 電池ケースを「カチッ」というまで差し込む。

- リモコンには、ボタン型リチウム電池（CR2025）が内蔵されています。CR2025以外の電池を使用しないでください。

索引

■ 製品についてのサポートのご案内

ホームページで調べる

"ハンディカム"の最新サポート情報
(製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法、使用可能なメモリーカードなど)
http://www.sony.co.jp/cam/support/

"ハンディカム"ホームページ
http://www.sony.co.jp/cam
"ハンディカム"の最新情報、撮影テクニック、アクセサリーなどに関する情報を掲載しています。

付属ソフトウェアのサポート情報
http://www.sony.co.jp/support-disoft/

電話で問い合わせる(ソニーの相談窓口)

●使い方相談窓口
フリーダイヤル.. 0120-333-020
携帯・PHS・一部のIP電話 0466-31-2511
最初のガイダンスが流れている間に下記番号+「#」を押してください。
本機や付属品:「400」
付属ソフトウェア「PMB」:「404」
受付時間:月〜金 9:00 〜 18:00　土･日･祝日 9:00 〜 17:00

●修理相談窓口
フリーダイヤル.. 0120-222-330
携帯・PHS・一部のIP電話 0466-31-2531
上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「400」+「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。
受付時間:月〜金 9:00 〜 20:00　土･日･祝日 9:00 〜 17:00

ホームページ　http://www.sony.co.jp/di-repair/

FAX(共通):0120-333-389

■ 製品登録のご案内

製品登録していただくと、安心、便利な各種サポートが受けられます。
詳しくはWEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-usbregi/

ソニー株式会社　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1　http://www.sony.co.jp/